



## 環境・社会報告書 2014

旭化成ホームズ株式会社

旭化成ホームズ 環境社会報告書 2014



# 環境・社会報告書 2014

## 編集方針

本報告書は旭化成ホームズ株式会社及び関連会社の環境活動と一部の社会活動についてステークホルダーの皆様にご理解いただくことを目的としています。

報告テーマの選定にあたっては、「当社が設定している環境・社会上の重要な課題」を前提としています。

## 参考とするガイドライン等

旭化成株式会社「旭化成レポート2014」  
環境省「環境報告ガイドライン2012」  
GRIガイドライン第4版

## WEBサイトについて

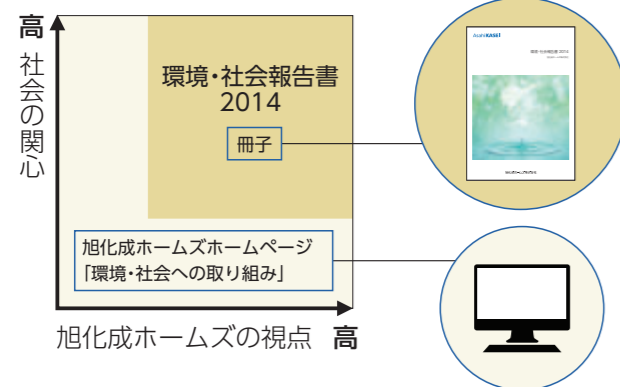
### 情報開示の考えかた

本冊子では、社会の関心と旭化成ホームズの視点から重要度の高いと思われる活動や2013年度の環境・社会に関する活動を中心に記載しています。

より詳細な報告や継続的な環境・社会活動についてはWEBサイトに記載しています。併せてご覧ください。

[http://www.asahi-kasei.co.jp/j-koho/environment\\_index.html/](http://www.asahi-kasei.co.jp/j-koho/environment_index.html/)

### 情報開示方法



## 対象期間

2013年度(2013年4月～2014年3月)

なお定性的な情報に関しては、2014年4月～6月の情報についても一部掲載しています。

## 想定している読者対象

お客様・お取引先・地域社会・行政・従業員・NGO・NPOなどステークホルダーの皆様

## 次回報告予定

2015年7月(2015年版)

## 対象報告範囲

旭化成ホームズグループ全体及び主要な材料調達先について報告しています。

### ● 旭化成ホームズグループ

- 旭化成ホームズ株式会社
- 旭化成不動産レジデンス株式会社
- 旭化成リフォーム株式会社
- 旭化成住工株式会社
- 旭化成設計株式会社
- 旭化成住宅建設株式会社
- 旭化成集合住宅建設株式会社
- 旭化成ライフライン株式会社
- 旭化成モーゲージ株式会社
- 旭化成不動産コミュニティ株式会社
- 旭化成賃貸サポート株式会社
- 旭化成ホームズ少額短期保険株式会社

### ● 主要な調達先

旭化成建材株式会社  
(旭化成ホームズに関連する事業について報告)

## お問い合わせ先

旭化成ホームズ株式会社 コンプライアンス・RC推進本部  
TEL 03-3344-7104 FAX 03-3344-7139

## ロングライフ住宅「ヘーベルハウス」

### 長持ちする住まいづくりを通じて環境や社会に貢献します

現在の日本社会において、急速に進行する少子高齢化問題や省エネ・省資源対策などの課題に対して、今後どのように取り組んでいくかを考えた時、“住宅の長寿命化”は、重要なテーマです。

それを実現するためには、耐火性や耐震性に優れた建物が物理的に長持ちすることに加え、社会のニーズに応え、それを先取りした住まい方の提案やリフォーム技術、建物を維持管理していくためのメンテナンス体制といった視点を欠かすことはできません。また住まう人の心地よさの追求や地球温暖化防止にむけたCO<sub>2</sub>削減、環境配慮といった面から自然を住まいの中に取り入れ、そのエネルギーを活用する技術の開発と実用化も大切な条件です。

ロングライフ住宅「ヘーベルハウス」は、長期耐久性を実現する「ロングライフシェルター」、住まい手の快適さやライフスタイルの変化に応え、自然の恵みを住まいに取り込む「ロングライフ設計」、住まいや暮らしを支え続ける「ロングライフサポート」を軸に長寿命化を実現し、世代を超えて住まい手の満足を維持しつづける都市型住宅です。

私たち旭化成ホームズグループは、ロングライフ住宅「ヘーベルハウス」を中心とした事業展開を通して、環境や社会に貢献していきます。



## contents

TOP Message	4
旭化成ホームズグループの事業と環境・社会への貢献	6
旭化成ホームズグループの環境理念と環境方針	7
旭化成ホームズグループ概要	8
<b>特集1 従業員座談会 私たちの「ロングライフ住宅」への想い</b>	10
<b>特集2 『あさひ・いのちの森』のコンセプトを都市の住まいへ</b>	14
<b>環境・社会活動に関するマネジメント</b>	
環境・社会活動に関するマネジメント	16
<b>環境に関する取り組み</b>	
環境目標と実績	18
旭化成ホームズグループと環境のかかわり	20
低炭素社会へ向けて	22
循環型社会へ向けて	26
自然共生社会へ向けて	27
社会との価値共創へ向けて	28
<b>お客様とのかかわり</b>	
お客様のために	32
品質管理の取り組み	34
労働安全衛生の取り組み	36
お取引先とのかかわり	37
<b>従業員とともに</b>	
従業員とともに	38
第三者意見報告書	41





代表取締役社長 池田 英輔

## 「ロングライフ住宅」から未来世代へ ～環境に優しく「都市の暮らし」に貢献します～

### ロングライフ住宅の実現によって環境・社会貢献を目指す

私たち旭化成ホームズは1972年の創業時、丈夫で長持ちする住まいをつくる、という考え方のもとで事業をスタートしました。1998年に事業理念として宣言した「ロングライフ住宅の実現」は、創業当時の考え方をより深く追求したものであり、2006年に制定された住生活基本法や長期優良住宅認定制度に象徴される「量から質へ」「スクラップ&ビルド型からストック型へ」と

いった、社会が住宅に求める意識の変化を先取りしたものでした。この考え方は現在においても、そしてこれからも変わることのない、私たちの事業の基盤であると考えています。

地球温暖化防止、CO<sub>2</sub>削減、環境配慮といった社会的な要請は、現在から将来に向けてますます高まりつつあります。私たちが掲げる、建物を長寿命化・長期耐用化する「ロングライフ住宅の実現」という住まいづくりは、建物建築から解体までのライフサイクルを長くし、結果として建築廃材やCO<sub>2</sub>削減を促すものです。私たちは今後もそれをさらに推し進めていく所存であり、そのた

めに2014年度より新たにコンプライアンス・RC(レスポンスブル・ケア)推進本部を発足させ、より一層「ロングライフ住宅の実現」を通して環境・社会活動を推進する体制を強化しました。今後、少子高齢化問題や地域コミュニティの活性化に関して、住宅産業に期待される役割はますます拡大していくと思われます。当社は「都市での快適な暮らし」や「環境に優しい住まい」を追求する中でそうした期待に応えるためにも、家族や都市の住まい方の変化といった時代のニーズに応える商品を提案し続けることを通して社会に貢献できるよう、これからも様々な提案を行っていきたく考えます。私たち旭化成ホームズは、「ロングライフ住宅の実現」に基づく住まいづくりを通して、新しい価値を社会と共に創り出していくことを目指してまいります。

### 事業活動でも環境・社会への貢献を推進

2013年度は、ヘーベルハウスの構造を一新した「NEXT HEBEL HAUS」シリーズを発売しました。このなかで採用した「クロスシフトプランニング」は、環境シミュレーション技術と、「しぜんごこち」という自然環境を上手に活用する住まい方の知恵をより効果的に融合させたもので、環境活動の推進につながるものです。当社が得意とする二世帯住宅分野でも、多世帯が同居することで可能となるエネルギーシェアは消費エネルギーの削減につながるものであり、2013年に発表したイマドキ親子の二世帯住宅「都市の実家」は、集住によって環境負荷低減に貢献するものと言えます。また、昨今需要が増えつつあるスマートアイテムについてもフルラインアップして、きめ細かく対応できる体制を整えました。

これら戸建事業で培ったノウハウについては不動産関連事業やリフォーム事業にも展開し、当社グループの様々な事業を通して「都市での快適な暮らし」と「環境に優しい住まい」をさらに追求していきます。

一方、その様なノウハウを事業内にとどめず、広く世の中に役立てていただくために、「住まい方の提案から環境に優しい住まい

を実現する」として開始した「EcoゾウさんClub」の活動が10周年を迎えました。活動を通して得られた情報は、さらに皆様に役立てていただけるよう、広く世の中への情報発信にも努めています。また、「エネルギー」「ライフ」「アジア」をキーワードとした先進的な技術や新しい住まい方を提案する「エネマネハウス2014」に産学一体となって参加した他、平成25年度住宅・建築物省CO<sub>2</sub>先導事業にも採択されるなど、多彩な活動を積極的に展開しました。

### 旭化成グループの一員として “いのち”と“暮らし”に貢献

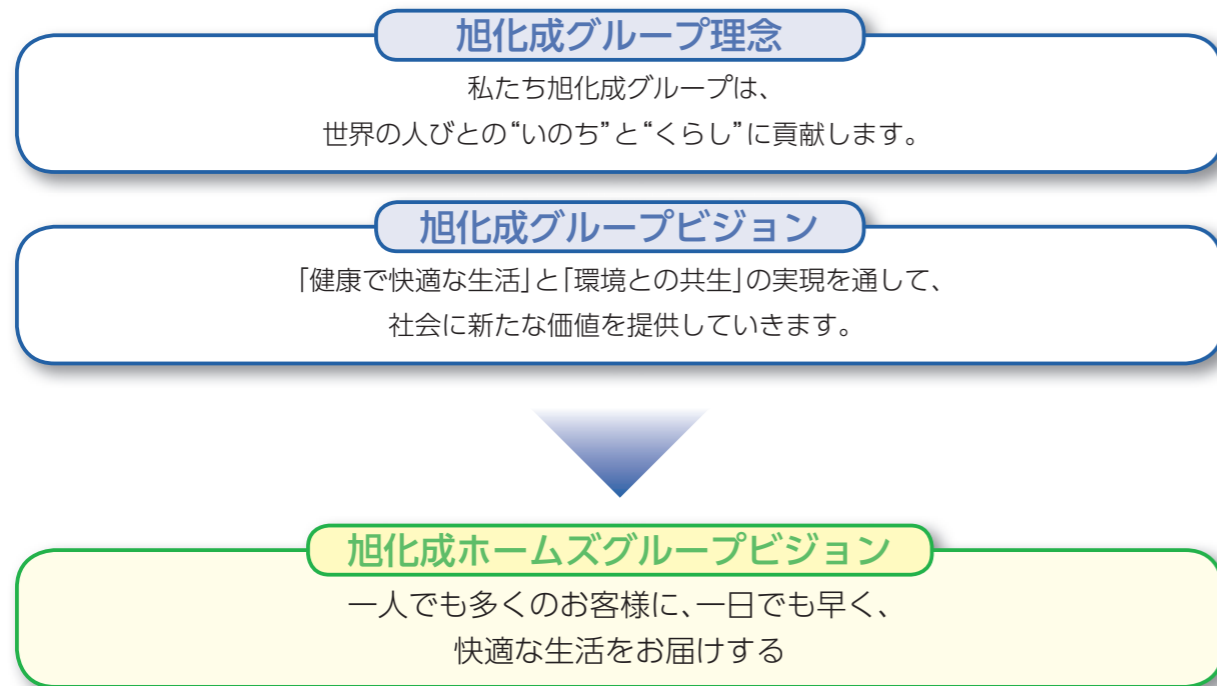
旭化成グループは、「世界の人びとの“いのち”と“暮らし”に貢献する」ことをグループ理念に掲げ、「健康で快適な生活」「環境との共生」の実現を通じて、社会に新しい価値を提供していくことをグループビジョンとして定めております。

この理念・ビジョンを実現する活動のひとつとして住宅総合技術研究所内に建設した実証棟「HH2015」では、社会的意義を持った様々な新規事業へのチャレンジを続けています。多様な創エネルギーアイテムや在宅医療について今後の道筋を開いたほか、昨今注目されている水耕栽培分野で卓上水耕栽培装置「ベジユニ」を商品化するなど、具体的な実績も出てきました。さらに、田子の浦に面した同研究所内において、地元本来の植生を活かした自然再生を目指すビオトープ「あさひ・いのちの森」も活動開始から7年を経ており、そこで得た知見を皆様にお伝えしながら当社の事業にも活かしていきます。

私たち旭化成ホームズは、旭化成グループの一員としてグループ理念とビジョンを礎とし、「一人でも多くのお客様に、一日でも早く、快適な生活をお届けする」を合言葉に、強みを創り、強みを活かし、都市での住まい・暮らしづくりを通して環境や社会に貢献することを目指して、社員一丸となって一層の努力を重ねてまいります。

# 旭化成ホームズグループの事業と環境・社会への貢献

旭化成グループでは、その理念とビジョンの実現に向け、グローバルリーディング事業の展開と共に「新しい社会価値の創出」を目指し、「環境・エネルギー」「住・暮らし」「ヘルスケア」の三つの領域に重点的に取り組んでいます。旭化成ホームズグループは、これらに密接にかかわる「都市の住まい」の提供を通して、少子高齢化、家族構成の多様化、安全・安心や環境への配慮、さらには良質な住宅ストックの形成などの社会的課題やニーズに応え、安心で快適な生活の実現にむけて事業活動を行っています。



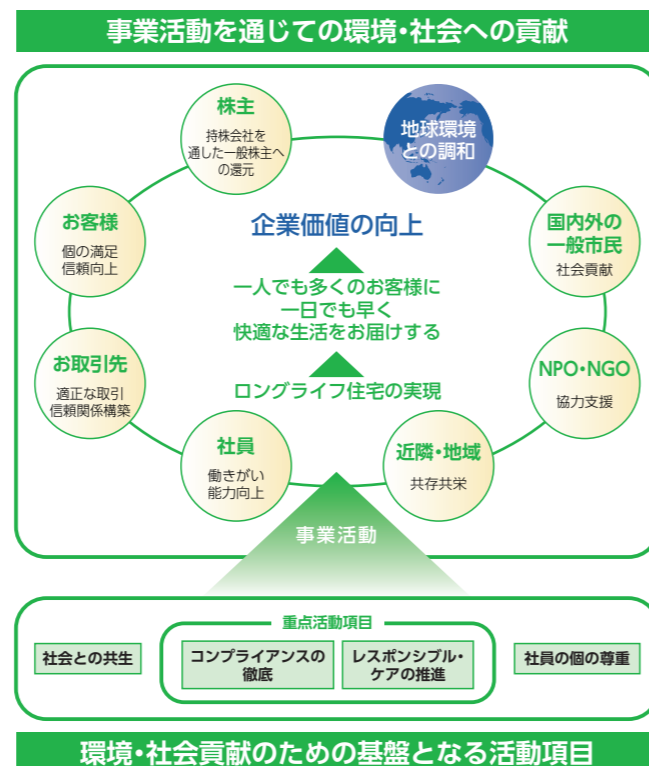
## ステークホルダーとのかかわりと環境・社会への貢献に関する考え方

当社グループは、住まいの提供や住まい方の提案を中心とした事業を通して、少子高齢化や家族構成・住まい方の多様化、エネルギー問題など、様々な社会的課題に応じていく、という考え方のもとに事業活動を展開しています。

そして、誠実な事業活動の推進そのものが環境・社会への貢献であり、ステークホルダーへの責任であると考えています。

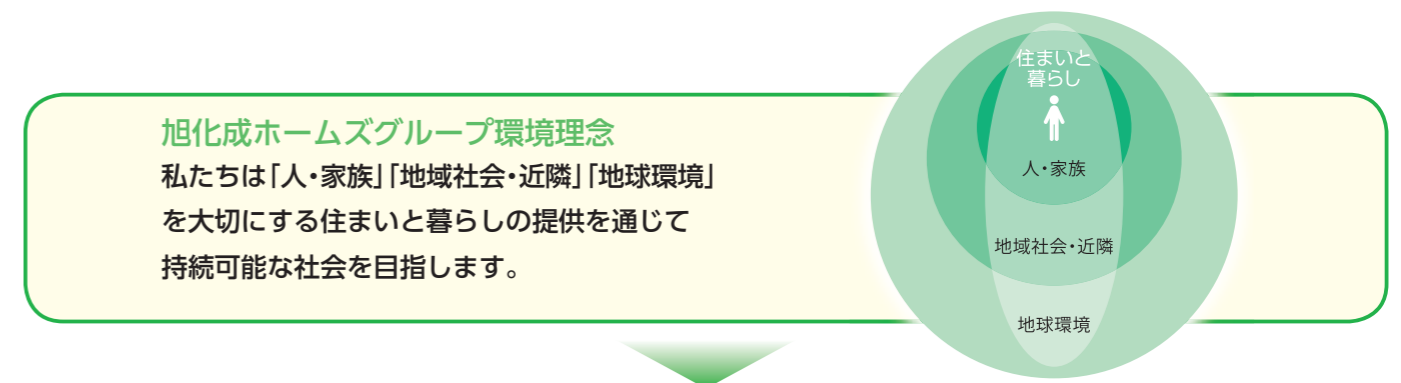
その実現のために、4つの活動項目「コンプライアンスの徹底」「レスポンシブル・ケアの推進」「社会との共生」「社員の個の尊重」を基盤にして事業活動を行っています。

とりわけ「コンプライアンスの徹底」と「レスポンシブル・ケアの推進」については、従来の各組織の取り組みを横断的に総括し、コンプライアンス遵守、安全推進の風土づくりの定着・充実を図るために2014年4月から専任の組織を立ちあげ、さらに積極的な取り組みを行っています。



# 旭化成ホームズグループの環境理念と環境方針

住まいそのものに必要とされるハード面での性能・機能だけでなく、そこに住まう人や家族に焦点を当てた暮らしへの提案は、「人・家族」から「地域社会・近隣」、そして大きく「地球環境」という概念につながっています。それは、旭化成ホームズグループの事業への取り組みがそのまま環境活動である、と言い換えることもできます。旭化成ホームズグループ環境方針は、この理念をよりわかりやすく情報発信し、さらに幅広く活動を推進していくためのものです。本報告書ではこの「環境方針」に基づいて2013年度の活動を報告しています。



**旭化成ホームズグループ環境方針**

ロングライフ住宅から未来世代へ貢献します。  
～環境に優しいこと、それが暮らしの豊かさを実現します～

1. 低炭素社会へ向けて …… 住まいを通じた環境貢献と事業活動に伴う環境負荷低減を通してカーボンニュートラルを目指します。
2. 循環型社会へ向けて …… 限りある資源の有効活用のため、産業廃棄物の削減やリサイクルに積極的に取り組みます。
3. 自然共生社会へ向けて …… 自然や地域との共生、生物多様性保全に配慮し、自然を大切にする社会の実現を目指します。
4. 社会との価値共創へ向けて …… 事業活動を通して環境理念の継承と社会との価値共創を目指します。

**column 進化するロングライフ住宅「ヘーベルハウス」**

旭化成ホームズが創業からの理念を継承して宣言した「ロングライフ住宅の実現」は、これからも変わることのない事業の基盤ですが、それを具現化する技術は、時代の変化や社会のニーズにあったものでなくてはなりません。そのために常に既存の技術を強化する研究・開発に努めています。特に耐震性に関わる技術については、常に高い水準を追求し続けてきました。最近では2013年11月に主に2階建てを中心とする鉄骨軸組構造の商品、2014年5月には3階建てに対応した重量鉄骨システムラーメン構造の商品をリニューアルし「NEXT HEBEL HAUS (ネクストヘーベルハウス)」シリーズとして上市しました。構造性能面で大地震だけでなく、中地震、小地震など様々な地震の揺れに対し機能する制震技術をより強化しています。

それと共に、空間の自由度を高め、間取りやデザイン、暮らし方まで含めて住まいの選択肢を広げ、自然の力を活用する様々な提案を盛り込んでいます。都市の住まいに焦点を当てた快適な暮らしを追求する当社ならではの提案です。ロングライフ住宅「ヘーベルハウス」は常に新しい技術を追求め、社会のニーズに合わせて日々進化し続けています。

# 旭化成ホームズグループ概要

旭化成ホームズは、旭化成グループの住宅事業会社として1972年に設立されて以来、長く住み継がれる「ロングライフ住宅の実現」という理念のもと、都市部を中心に「ヘーベルハウス」を供給しています。  
また、この理念実現のために不可欠な住まいの資産価値向上、美しい街づくり、豊かな住生活の支援という視点から多彩な関連事業を展開しています。

## 事業紹介

### リフォーム事業



ロングライフ住宅の高い価値を維持・更新するために、ハウスクエアやリフォームに取り組んでいます。  
■ 旭化成リフォーム株式会社

### 新築住宅事業



「ロングライフ住宅」の実現により、安心で快適な暮らしを提供します。

- 戸建住宅「ヘーベルハウス」  
集合住宅「ヘーベルメゾン」
- 旭化成ホームズ株式会社
  - 旭化成設計株式会社
  - 旭化成住工株式会社
  - 旭化成住宅建設株式会社
  - 旭化成ライフライン株式会社
  - 旭化成集合住宅建設株式会社

### ファイナンシャル事業 モーゲージ事業 コンサルティング事業



住宅の高い資産価値を活かした金融・保険商品や、不動産の有効活用など多岐にわたる生活サービスを提供しています。  
■ 旭化成モーゲージ株式会社  
■ 旭化成ホームズ少額短期保険株式会社

### 不動産関連事業



不動産流通事業  
「ストックヘーベルハウス」などによる顧客ニーズに応えた不動産流通を推進しています。  
■ 旭化成不動産レジデンス株式会社



マンション開発・宅地開発事業  
地域の開発や老朽化したマンションの建替えなどを通じて、快適で資産価値の高い、美しい活力のある街づくりを進めています。  
■ 旭化成不動産レジデンス株式会社  
■ 旭化成不動産コミュニティ株式会社  
■ 旭化成賃貸サポート株式会社

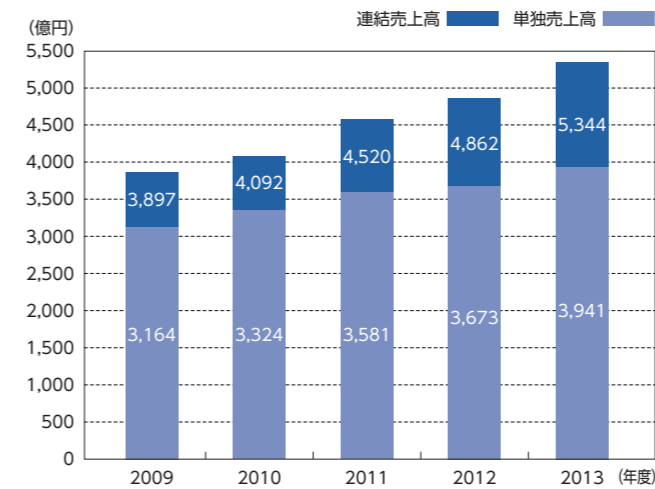
## 会社概要

社名	旭化成ホームズ株式会社
所在地	〒160-8345 東京都新宿区西新宿1-24-1
設立	昭和47年(1972年)11月
資本金	32.5億円
売上高	5,344億円(平成26年3月期連結)
従業員数	5,787人(連結)

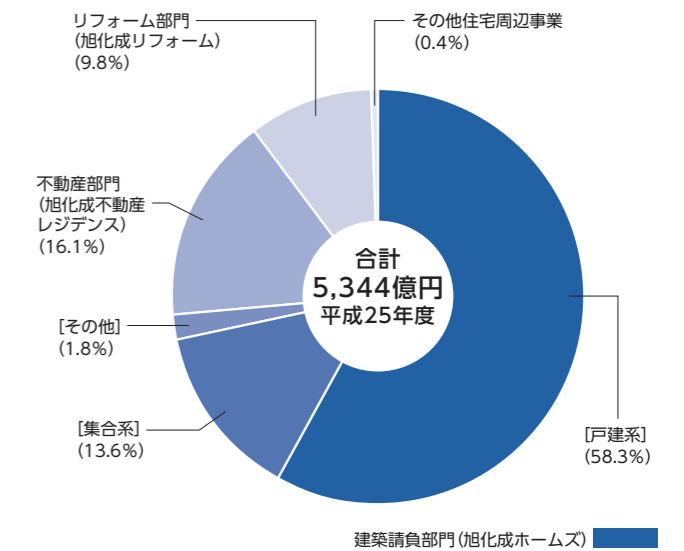
## 組織

事業所 営業本部……9、支店……83  
主な工場 旭化成住工株式会社 滋賀工場、厚木製造部  
旭化成建材株式会社 境工場、穂積工場、岩国工場  
(旭化成ホームズに関連する事業について報告)

## 旭化成ホームズグループ売上高



## 旭化成ホームズグループ売上内訳



## 主な販売地域

東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城、栃木、群馬、山梨、静岡、愛知、岐阜、三重、大阪、兵庫、京都、奈良、滋賀、和歌山、岡山、広島、山口、福岡、佐賀  
(一部販売していない地域があります)



専門領域を連携し、暮らしの多様なニーズに応えます

# 私たちの「ロングライフ住宅」への想い

旭化成ホームズは、いつまでも快適な暮らしを実現する「ロングライフ住宅」を提供しています。それを支える社員が日々の業務を通して実践している活動や、各人が考えるロングライフ住宅のあり方などを通じて、「ロングライフ住宅」とはどのようなものなのか、環境や社会へどのように貢献をしているのかを語ります。



参加者(五十音順)

- 市川 靖道 (東京営業本部 渋谷支店 営業課)
- 清水 郁夫 (中部営業本部 三河支店 ホームサービス課)
- 宮本 一政 (関西営業本部 阪奈支店 工事課)
- 大津 圭司 (集合住宅営業本部 神奈川第一支店 設計課)
- 三原 晶 (千葉・茨城営業本部 柏支店 営業課)
- 若木 健吾 (技術本部 第二技術部)

\*進行:コンプライアンス・RC推進本部

当社は社会に対してどのように役立っていると思いますか？

**市川(営業)** 私は営業を担当しています。当社とその製品を知っていただくのが仕事です。特に大震災以降、お客様の防災意識の高まりを実感しており、都市型住宅メーカーとして、首都圏で古い木造住宅を防災性能の高い住宅に建替えていくことに社会的意義を感じますし、社会に必要とされているものをご提供している自負があります。

**三原(営業)** 同じく営業担当です。同居される家族構成が多様になってきたと感じますので、そうした変化にお応えすることも私たちの重要な使命だと思います。家族を守る安全

性や耐震・耐火性などは住まいの基本で、当社はその基本を貫くことで、街全体の安全性向上に貢献してきたのではないのでしょうか。基本性能をふまえて新しい住まいの在り方、さまざまな幸せの形をご提案し続けてきたことが、私たちの仕事の社会的意義だと思っています。

**大津(設計)** 実際の建物を設計するのが私の仕事です。私は賃貸マンションなどの集合住宅を設計していますが、目指すのは、何より長く残る良い建物です。最近も大規模な集合住宅を手がけましたが、そこでは、あえて空地を設けた緑豊かな街並みとしました。集合住宅は規模が大きいただけに周囲への影響も大きくなりますし、私たちには快適な街並みをつくるという社会的な使命もあるのではないかと思います。

**宮本(工事)** 実際に住まいを建てる工事部門を担当しています。ヘーベルハウスの基本性能の高さを長く保つには、工事段階から厳しい品質管理が必要ですが、私たちは「LLQCS<sup>\*1</sup>」という品質管理システムによって高品位な住まいの基盤をつくっています。それが私たちの業務の社会的役割であると思っています。

**若木(技術)** 省エネをはじめとする技術開発に携わっています。住まいには今、高次元の省エネ効果が求められており、国も後押ししています。その基準を満たした商品を展開することが、結果的に環境や社会にも役立つと思います。

**清水(ホームサービス)** 私は、住まいが建てられたあとの保守・点検などアフターサービス業務を担当しています。その業務の中で、お客様の高齢化に伴うさまざまなお困りごとと直面していますが、今後はそうしたお悩みの窓口的な役割も期待されているのではないかと思います。

## 私たちが考えるロングライフ住宅

当社が社会的役割を果たす上でのキーワードが「ロングライフ住宅」です。皆さんが持つ「ロングライフ住宅」についてのイメージを教えてください

**市川(営業)** 私の入社当時「ロングライフ住宅」という言葉はなく、模型などで他社との違いをご説明していました。その後この言葉を聞いた時、ストンと腹に落ちたんです。「すべての技術やサービスは、ロングライフ住宅を実現するためのものだったのか」と納得できたので、その後は、ますます自信を持ってご説明できるようになりました。建てた後のサービスがあって初めて長持ちする家と言えるのではないのでしょうか。

**三原(営業)** 本当は誰も建替えなどしたくないし、愛着のある家にずっと住んでいたいはず。だから、長持ちして愛着の持てる住まい作りのお手伝いをしたい。そんな思いもあって、展示場では、お客様の20年、30年後の暮らしの話も交えながらご説明しています。

**大津(設計)** 入社した時、会社に過去の全物件のカルテがあるということを知って驚きました。それをずっと続けている実績があるので、お客様にも説得力のあるお話ができますね。「ロングライフ住宅」と言い切れるのは、そのようなしっかりした体制もあってこそだと思います。

**清水(ホームサービス)** 素材や技術などのハード面、アフターサービスなどのソフト面、その両面で安心・安全を長く提供できる住宅。それが「ロングライフ住宅」だと思います。営業の皆さんがそうした自信を持ってヘーベルハウスをお勧めできるようサポートしていきたいですね。

**若木(技術)** 鉄骨ALC構造というのはヘーベルハウスだけのメリットで、自信を持って堂々とお客様にご提供できるものです。ただ、ある意味で完成している技術とも言えますので、今後のニーズの変化に柔軟に対応できるように進化させていくことも視野に入れ

たいですね。

**宮本(工事)** 大震災の際、私たちは大阪から栃木エリアに駆けつけてお客様の全軒を点検したのですが、会社としてそういう動きができたのは、お客様一人ひとりに向き合う体制が土台にあったからです。そうしたソフト面は「ロングライフ住宅」の重要な要素ですね。

住まいづくりは環境配慮と切り離して考えられない時代になったと思いますが、皆さんの業務において、環境面ではどのような取り組みをしていますか？

**若木(技術)** 環境性能もまた「ロングライフ住宅」という考え方の重要な要素だと思っています。さまざまな設備・機器を取り入れることで環境に優しい家を謳うという考え方もありますが、ヘーベルハウスは、そういう方向ではないですね。

**三原(営業)** まずは基本性能を固め、環境設備に頼らなくても快適に暮らせる住まい。それがヘーベルハウスの真価です。設備類は建物本来の性能があって初めて活かされると思います。

**市川(営業)** 太陽光発電設備については、エコノミーという観点からお客様の関心が高いですし、私たちはお客様のご要望に合わせて設備面のご提案ができる態勢を整えています。

**清水(ホームサービス)** リフォームの一環として太陽光発電を導入される例も多く、私たちも積極的に提案していますし、点検時にご要望をうかがってLED照明などもお勧めしています。

**大津(設計)** 集合住宅では広い屋根を太陽光発電に活用することもできますが、環境への配慮を集合住宅の魅力としてどうアピールできるか、今後考えていきたいですね。

**宮本(工事)** 工事現場での環境配慮として

は、材料の余りを無駄なくできるだけ使うようルールを見直し、26分別<sup>\*2</sup>を徹底して産業廃棄物を減らすなどの取り組みを続けています。現場の理解も進み、協力していただけるようになりました。



**市川 靖道**  
(東京営業本部 渋谷支店 営業課)  
1996年入社  
「変化を成長の糧に」



**大津 圭司**  
(集合住宅営業本部 神奈川第一支店 設計課)  
2002年入社  
物件ごとに新しい課題や発見があり、やりがいを感じています。





**清水 郁夫**  
(中部営業本部 三河支店 ホームサービス課)  
1995年入社  
「更なるプロへの追求」を念頭に自分を高めていきます。



**三原 晶**  
(千葉・茨城営業本部 柏支店 営業課)  
2003年入社  
自分自身が、お客様と一緒に住まいづくりを楽しむことを心掛けています。



2014年度から、環境報告書は社会的側面の報告も盛り込み、環境・社会報告書として発行することになりました。そこで、当社の社風や制度、働きやすさなど、感じていることを教えてください。

**市川(営業)** 営業ではOJTが何より重要な、「習うより慣れる」の世界です。当社の営業部門は、お客様担当をインストラクター役の先輩がサポートするチーム制で、これは同業他社にない特長です。何かあると皆で助け合うと、本人が持てる以上の力を発揮することもあります。個人プレイよりはチームプレイに重きを置くのが当社の社風と言えますね。

**三原(営業)** 私の職場も、ベテラン社員は面倒見がよくて話しやすい雰囲気ですし、正社員も派遣社員もいっさい分け隔てなく協力し合っています。若手の時、若い営業担当を講師に迎えた研修があり、自分の世代が自信を持って働いている様子を知って励まされました。また、地域によっては女性が少ないのですが、会社が全国から女性社員を集めて話し合う場を設けてくれたことがあり、これもすごく支えになりました。

**若木(技術)** 以前、研修の一環として各チームがさまざまな困難を克服しながらゴールを目指すというイベントがありました。メンバーがコミュニケーションを取りながら一つの目標を目指すうちに、チームワークの大切さを学ぶことができ、いい研修だったと思います。たしかに、チームプレイは当社の風土でしょう。

**清水(ホームサービス)** 先輩たちがフォローする風土はありますね。制度として、社員のモチベーションを高めるよい取り組みだと思っております。これはと思う新しい活動成果を発表する機会があり、内容がよければ表彰されて皆が自分の仕事に取り入れるんです。

**大津(設計)** 設計ではプランニングコンペがそれに当たります。自分がやってきたことを振

り返る意味もあり、まわりから評価されることでモチベーションが上がる効果もあります。

**三原(営業)** 妊娠や出産など女性ならではの事情に配慮した制度面も整っていると思いますし、私の支店でも、現在、二度目の育休に入っている女性社員がいます。ただ、社員の家庭の事情はさまざまですから、仕事の成果を評価する基準ももっと多様であっていかもかもしれません。女性にとって、住宅メーカーは活躍しやすい職場だと思います。女性としての発想や感覚はやはり大切ですので、女性ならではの視点を展示場づくりやお客様との打ち合わせに反映したいですね。

**市川(営業)** うちの営業職にも女性メンバーがいますが、まだまだ女性が働きやすいとは言えないものの、徐々に環境は整ってきていると思います。今は建築学科などを出た女性も多いですし、若い世代は男女分け隔てなく仕事しています。

**若木(技術)** 皆さんその分野のプロですし、男性か女性かというより、プロとして仕事をしていただいているという感覚ですね。

**宮本(工事)** 工事現場でも女性は多いですね。もちろん体力差などがありますが、男性でなければできないという仕事ではないと思います。工事課の場合、現場から戻った後の事務仕事も多いので残業もあります。要は仕事の仕方の問題でもあり、私自身は残業は少ないほうですので、今回赴任した支店でその方法を展開していきたいと考えています。

**若木(技術)** たしかに、お客様のご要望次第では社に戻ってからの仕事が多くなることもありますが、プライベートと仕事の区別がつきにくくなる面はありませんね。

**市川(営業)** 「ノー残業デー」のような制度もあり、店長という立場上旗振り役になるわけですが(笑)、私としては、仕事をシェアするのがいいと考えています。営業の仕事はなかなかシェアしづらいのですが、仕事を机の上に出して皆で均等に割るというやり方は最近増えてきました。

当社が掲げる「一人でも多くのお客様に、一日でも早く、快適な生活をお届けする」というビジョンについて、どう捉えていますか？

**三原(営業)** この言葉を聞いたとき「まさにその通り！」と思いました。このビジョンが言うことを目標に仕事をしているわけですから、どの立場の社員にも当てはまる基準ですし、これを基準にしている限り迷いなく仕事ができます。

**市川(営業)** 「一日でも早く」は「その時点の一步先へ行け」とも読める。社員に「成長し続けなさい」と呼びかけるメッセージであると考えています。

**大津(設計)** 「業務を早く確実にこなさない」ですが、「自分の頭でしっかり考え、工夫して、自己改革をしろ」というメッセージとして受け取っています。

**若木(技術)** 技術開発のタイミングからすると、なかなか難しいテーマではありますが(笑)。ただ、いいものを作っても手の届かないものでは意味がありませんので、お客様本位のものを開発しなさいというメッセージであると考えています。

**宮本(工事)** 私たちの事業を全部包含したわかりやすいメッセージだと思います。「一人でも多くのお客様に」は「一軒でも多く」と読めますし、「一日でも早く」は施工にも通じます。

**清水(ホームサービス)** 「快適な生活」には、単に住宅をご提供することにとどまらず、住んでいただいた後のサービスまでご提供しますという姿勢が謳われていると思います。

そうしたビジョンを目指す会社の将来、そして自分の将来についてどのようなイメージを持っているかを聞かせてください。



**市川(営業)** 今後人口減が進むと、住宅メーカーの合従連衡も進むという見方がありますが、その際、当社は合併される側より、する側になってほしい。お客様と真摯に向き合い、ご信頼いただくという当社のDNA、お客様を裏切らない文化を受け継いでいけるからです。

**三原(営業)** 当社が自信を持ってやってきたこと、プレずにやってきたことを買ってほしいですね。今までの姿勢には絶大なご信頼をいただいているわけですから、ヘーベルハウスというブランド力をますます確固たるものにして、ファンを増やしてほしいと思います。

**大津(設計)** たしかに、質のいい住まいを提供するという当社の本質、軸の部分はブレないようにしてほしいですね。自身の将来については、経験を積んでずっと一担当でいたいという気持ちもある一方、この4月から人を育てる立場になって、その楽しさも見えてきたところで、その両方ができればいいなと思っています。

**若木(技術)** 当社の販売規模からして、人口減の影響は大きくないような気もしますが、将来的には、アフターサービスを通じて地域やコミュニティとの結びつきを強化していく必要はあると思います。ただ、今お話があったように、住宅メーカーとしての本質にブレがあってはいけない。住宅メーカーとして、お客様のご要望の変化に柔軟に対応できる、いっそう融通のきく会社になるために、今すぐやるべきことがたくさんあると思います。

**宮本(工事)** たしかに今後住宅は売れにくくなるかもしれませんが、当社の場合、さまざまな事業を手がけるグループ会社がありますし、その連携を活かせるのではないのでしょうか。

**清水(ホームサービス)** ロングライフ住宅を通じてお客様と長いおつきあいができる

メーカーであることを基本に、建てた後のサービスがもっと大きな割合を占める、言わば「ライフサポートメーカー」のような存在としてさらに成長するという可能性もあると思います。

\*\*\*\*\*  
今回集まった社員は「旭化成ホームズはまじめな会社」と口を揃えます。設計・施工から販売、アフターサービスに至るすべての段階においてお客様と誠実に向き合う当社の遺伝子は確実に受け継がれているようです。旭化成ホームズは、今後も、社員が同じビジョンを共有し、同じベクトルを持つことで、一丸となって住宅メーカーとしての使命を果たし、信頼され愛される企業に成長していきたいと考えています。

- \*1 LLQCS(ロングライフクオリティコントロールシステム)「住宅の品質確保の促進等に関する法律」に加え、旭化成ホームズが独自で開発した施工現場の品質管理システム。
- \*2 新築施工現場における産業廃棄物26分別。



**宮本 一政**  
(関西営業本部 阪奈支店 工事課)  
2004年入社  
安全・品質・納期管理を徹底し、お客様の最高の暮らしを創造します！



**若木 健吾**  
(技術本部 第二技術部)  
2001年入社  
シンプルでわかりやすい設計を心がけています。

# 『あさひ・いのちの森』のコンセプトを都市の住まいへ

あさひ・いのちの森全景(2014年6月撮影)

## 『あさひ・いのちの森』の生長と7年間の活動

旭化成ホームズは、2007年に静岡県富士市の旭化成(株)富士支社内に住宅総合技術研究所を創設しました。

『あさひ・いのちの森』は、研究所の環境活動ゾーンに地域や環境との共生、生物多様性保全に取り組む活動の一環として造成した約1万㎡の緑地です。

植樹から7年を経過した現在、森は当初の計画に沿って、自然林・里山林・草地・湿地・池・流れ・田んぼなどの多様な生態系を創出し、豊かな生長を続けています。そしてその生長を見守りながら様々な活動を行ってきました。

それは、生長を誘導するために毎年行っている植生調査をはじめとして、森を題材にした絵本の発行<sup>\*1</sup>、多様性維持のための森林区の試験伐採など、多岐にわたります。また、(財)都市緑化基金の「生物多様性保全につながる企業のみどり百選 特別認定サイト」にも選定されました。このような活動の実績や成果はWEBページ<sup>\*2</sup>で詳細に公開しています。

## 森づくりのコンセプトを都市の住まいに展開

森づくりの中でめざしていることは、地域本来の複層的で多様な緑の再生と、そこに鳥や蝶などの生き物が入り込み複数の環境の中で定着しエコロジカルネットワーク<sup>\*3</sup>を構築すること、さらには人と自然の触れ合いの場の創出、企業と地域のコミュニケーションなどです。森の生長とそこに関わる7年間の活動を通して、それは着実に進んでいます。今後は、さらに充実させるための継続的で地道な活動が重要であると考えています。

一方で、この森で学んだことを私たちの本業である都市の住まいづくりの中に活かしていくことに取り組み始めています。自然と接する機会が減少しつつある都市の中に意義のある緑を再生し、暮らしの豊かさや生物多様性保全に貢献する事を目的とした、『住まいの庭』に着目した取り組みです。都市の住まいの庭に、そのままこの森の形を再現することはできませんが、コンセプトや森づくりを通して得た知見を活かしていくことができると考えています。

<sup>\*3</sup> エコロジカルネットワーク  
いきものが生息・生育する様々な空間(森林、農地、都市内緑地、水辺、河川、海、湿地、湿原、干潟、藻場、サンゴ礁等)がつながる生態系のネットワークのこととして使われる言葉です。



『住まいの庭』に森のコンセプトを取り込み地域に緑のネットワークをつくるシミュレーション



湧き水溢れる「下池」。森に潤いをあたえています

- \*1 あたらしい森 あさひ・いのちの森  
<http://www.asahi-kasei.co.jp/file.jsp?id=263258>
- \*2 生物多様性保全への取り組み「あさひ・いのちの森」  
[http://www.asahi-kasei.co.jp/j-koho/asahi\\_inochi\\_no\\_mori.html/](http://www.asahi-kasei.co.jp/j-koho/asahi_inochi_no_mori.html/)

## 自然を意識した「都市の住まい」 これまでの取り組みと今後の展開

当社は1972年の創業以来一貫して都市における住まいづくりを中心に事業を展開しています。そしてその中で耐震性・耐火性といったハード技術に加え、自然を住まいの中に取り入れ自然のエネルギーを活用する環境に配慮した住まいづくりの研究や、自然そのものとふれ合うことで実現できる豊かな暮らしといった提案を進めてきました。

2006年には、人の健康と快適性を両立させる住環境のあり方を研究することを目的として「ひとと住環境研究会」を発足させています。その研究成果に基づいたコンセプトハウス1棟目を2009年に公開しました。<sup>\*4</sup> 2011年には夏の暮らし方のヒントをまとめた小冊子「しぜんごこちの暮らし」を発行しています。<sup>\*5</sup> さらに2012年夏に発行したヘーベルハウスプラン集「しぜんごこちの家 コンセプト&プランブック」は、風や光に触れることや緑を楽しむ暮らしなど、都市における住まいづくりに直接役立つものです。

また、都市の中でも自然を感じることでできる快適な住まいを具体的なかたちにした商品「そらから」「かぜのとう」「そらのま+」などを上市しています。

今後は、これらに加えて都市の「住まいの庭」に森づくりを通して得た知見を盛り込んでいくことを計画しています。これは、より豊かな都市の暮らしを実現するものであると同時に、都市型住宅No.1を目指す私たちが取り組むことで、一つひとつの庭の緑がつながり都市の中に自然のネットワークを再生し、生物多様性保全に貢献できるものだと考えています。

- \*4 最新のしぜんごこちの家コンセプトハウスを本誌p22.でご紹介しています
- \*5 2012年3月に冬の暮らし方を盛り込んだ改訂版を発行しました。こちらのページからご覧頂けます  
<http://www.asahi-kasei.co.jp/j-koho/kurashi/shizengokochi/index.html/>



しぜんごこちの家(つくば吾妻)  
コンセプトは「自然のリズムに寄り添った暮らし」

自然に寄り添う暮らし方や緑がもたらす豊かさを紹介した小冊子・カタログ



「しぜんごこちの暮らし」 「しぜんごこちの家コンセプト&プランブック」



「そらのま+」とは、2階リビングの天井を「ひらく」という発想でつくられた、オープンエアのマルチスペースです。室内に自然の恵みを取り入れ、省エネルギーにも貢献します

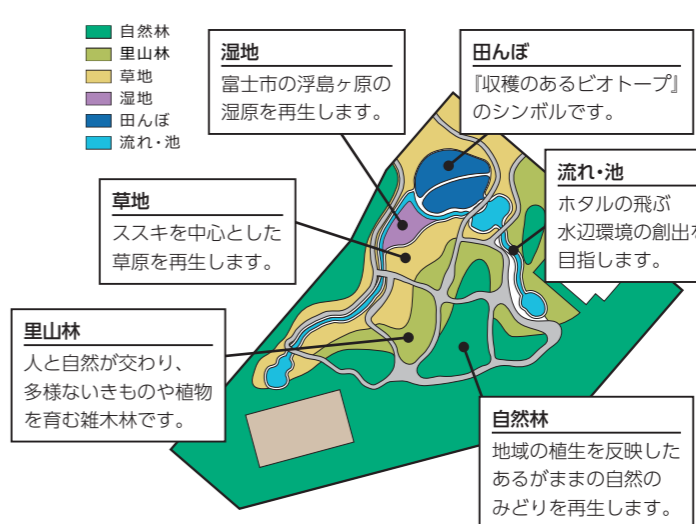
## 『あさひ・いのちの森』の特徴

### I. 現存植生調査に基づく 地域固有の緑の再生



地域の現存植生調査から潜在自然植生を把握し、植生種を選定しています。

### II. 明確な再生目標に基づいた多様性に富む自然再生 自然と人の活動の交わりも含めたビオトープ



### III. 多様性が生み出すエコロジカルネットワークの構築



いきものは一つの環境だけでは自生定着できません。この森は、いきものが複数の環境を行き来できるエコロジカルネットワークを構築しています。

### IV. 生長を見守り誘導する取り組み

植生調査をはじめとする調査活動を継続し、森の生長を見守ると共に自然再生を誘導します。





# 環境・社会活動に関するマネジメント

旭化成ホームズグループは、全旭化成グループの一員として、法令などの社会的規範、社内規程等を遵守するとともに、人権、地域の文化・慣習を尊重し、また、高い倫理観に基づいて行動することにより、世界中の人びとから信頼される企業であり続けます。

## コンプライアンス

### 企業倫理推進体制

旭化成グループは、グループ内のコンプライアンス教育や法令遵守状況のモニタリングを行う「企業倫理委員会」を設置し、企業倫理に関する審議と全社方針の決定を行っています。同委員会の委員長は持株会社（旭化成株式会社）の社長執行役員が務め、問題点の抽出や改善策の検討を行い、グループ全体のコンプライアンスの推進に努めています。

7月に開催された同委員会では、グループ各社ごとのコンプライアンス重点課題・方針、法令の遵守状況、情報の取り扱い対応、内部通報制度の運用状況などについて議論しています。

### 企業倫理に関する方針・行動基準

1998年8月に制定した「企業倫理に関する方針・行動基準」は、旭化成グループの役員および社員一人ひとりが、日々の行いで心がけるべき事項をまとめたものです。本方針は、「旭化成グループ基本理念」に沿って事業活動を行う上で守るべき方針であり、本行動基準はこの方針を遂行するための具体的な行動基準です。

毎年1回、社会的要請の変化に対応するための内容見直しを行っています。

#### 企業倫理に関する方針

1. 価値創造と社会貢献
2. 環境・安全・健康への配慮
3. 社会的規範の遵守
4. 反社会的勢力の排除
5. 人権の尊重
6. 経営の透明性の確保
7. 情報と知的財産の尊重
8. 企業倫理の実践



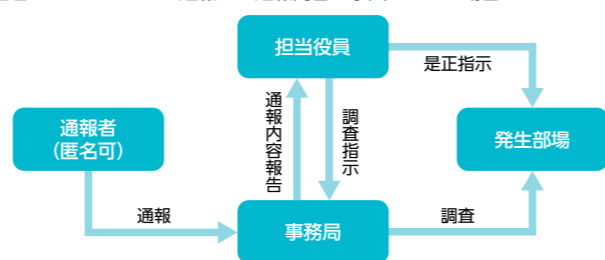
企業倫理に関する方針・行動基準(冊子)

### 内部通報制度

旭化成グループは、コンプライアンス違反に関する情報を速やかに収集し対策を講じることを目的として、2005年より内部通報制度を導入・運用しています。通報手段にはイントラネットと封書(指定する弁護士事務所宛)があり、匿名、実名いずれでも受け付けています。なお、通報者に対し、通報を理由とした不利益な取り扱いが行われないための措置を講じています。

#### 内部通報制度の運用例

匿名でイントラネット通報し、通報内容が事実であった場合



### 情報の保護・管理

#### ● 個人情報の保護

旭化成グループは、取得・利用させていただいている個人情報の適正な保護を重要な責務と認識しており、「個人情報の取り扱いにかかわるガイドライン」を策定し、個人情報を取り扱っています。また、全社員に、情報の取り扱いについてのルールを記載した「情報セキュリティハンドブック(冊子)」の配布、e-ラーニングによる教育を行うとともに、これらの教育・啓発活動を企業倫理委員会でモニタリングしています。



#### コンプライアンス・RC推進本部長メッセージ

執行役員  
コンプライアンス・RC推進本部長  
**桑原 良介**



旭化成ホームズグループは、事業活動を通じて、グループビジョンである「一人でも多くのお客様に、一日でも早く、快適な生活をお届けする」ことが環境・社会への貢献活動そのものであると考えています。2014年度は、「グループ全体の安全及び漏れのないコンプライアンス遵守の組織風土を強化する」ために、コンプライアンス・RC推進本部が新設されました。まずは法令遵守の再徹底から始め、最終的には社会の要請に応える企業活動を目指してコンプライアンス遵守の組織風土を定着させます。さらに、「安全・健康・環境」を確保する自主的なRC活動の支援に取り組めます。

この度の環境・社会報告書には、ロングライフ住宅の実現を通して社会との価値を共創する具体的な活動を社員の想いとともにご紹介しておりますので、ご覧いただければ幸いです。

## 環境・社会に関するマネジメント

### 全体に対する体制

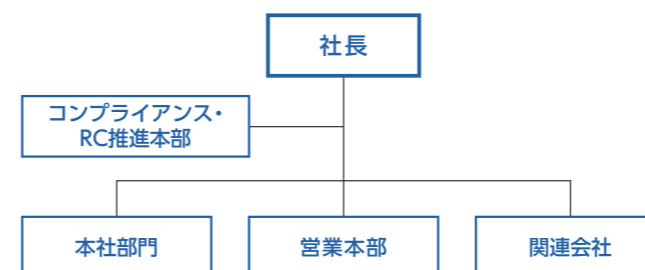
旭化成ホームズグループの環境・社会に関する活動は、事業プロセス全体にわたっています。そのため、環境・社会に関する各テーマのマネジメントは事業そのものの体制によって管理されています。その活動の結果は経営層によって審議・承認及び必要に応じた指示が行われるほか、親会社である旭化成株式会社の各専門部門に報告される仕組みとなっています。

### コンプライアンス・RCに関するマネジメント体制

レスポンシブル・ケア(RC)活動とは、化学物質を扱う企業が化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至るまで、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表し社会とのコミュニケーションを図る活動です。

旭化成グループは、ケミカル事業分野にとどまらず、全事業領域においてRC活動を実施しています。私たち旭化成ホームズグループの一員として1995年よりRC活動を導入し、グループ会社及び協力業者様も含め環境保全や安全衛生管理などを行っています。

#### コンプライアンス・RC体制図(旭化成ホームズ)



また、旭化成ホームズグループは、2014年度からコンプライアンス活動とRC活動を同一のマネジメント体制の下に管理していく体制へ移行し、環境・安全・健康・コンプライアンスを管理するコンプライアンス・RC推進本部が新設されました。これによって、環境・安全・健康の管理強化、コンプライアンス強化がこれまで以上に推進されていく予定です。

### コンプライアンス・RCの取り組み

コンプライアンス・RCの取り組みの中で、環境管理については、環境目標管理のPDCA(Plan-Do-Check-Act)サイクルの仕組みを中心に実施されています。環境目標は、事務局であるコンプライアンス・RC推進本部が、環境目標の設定、進捗管理について各部門及び関連会社のサポートを行っています。毎年4月に各部門が設定する環境目標の達成状況は、RC管理部がRC活動全般の活動を監査する年2回の「RCヒアリング」により確認しています。



旭化成住工 RC大会の様子

### RCヒアリング

RCヒアリングでは、活動状況の確認を中心に、必要に応じて環境の取り組みに関する情報の提供やアドバイス、各部署からの要望の聞き取りなどを行っています。2013年度は本社部門(7部署)、各営業本部(9本部)、旭化成住工、旭化成リフォーム、旭化成住宅建設の計19箇所で開催を実施し、「環境理念」の共有、環境活動目標と部署ごとの実行計画の確認、進捗確認などを行いました。それらのレビュー結果は持株会社が各事業会社や支社に対して年1回行っている「RC監査」で報告し、旭化成グループ全体で確認・評価されます。

#### RC管理本部長メッセージ

コンプライアンス・RC推進本部 RC管理本部長  
**森本 泰三**



2014年度からの新しい体制の発足により、従前から社会へのメッセージを多く含んでいた当社の環境活動については、環境・社会活動として発展させた形で、RC管理の中に明確に位置づけることができました。それに伴い、報告書の名称も今回から「環境・社会報告書」に変更し、お客様や従業員等を含む幅広いステークホルダーの皆様にかかわる取り組み等を新たに掲載しています。元々RCは地道な活動成果を公表して社会とコミュニケーションを図る活動です。今回の内容も、読者の方々のご意見をいただくことを前提に、より具体的かつわかりやすい報告となるように努めました。この報告書が、私たちの取り組みをご理解いただき、世の中の環境・社会問題についても皆様とともに考える一つの機会となることを願ってやみません。

# 環境目標と実績

住工:旭化成住工 建材:旭化成建材

当期目標を

😊:達成

😐:達成に近づいた

😞:未達成

テーマ	2013年度計画	2013年度実績
環境配慮住宅の提供	①LCA視点でのCO <sub>2</sub> 貢献度の指標化と拡大→目標値【9.8】	実績値【9.7】
	②自然の恵み利用設備の普及促進(太陽光・太陽熱・地中熱など) CO <sub>2</sub> 削減目標 戸建て873kg-CO <sub>2</sub> /棟 メゾン1,098kg-CO <sub>2</sub> /棟 「しぜんごこちの家」3階建(大宮)建設公開 くらしノバージョンフォーラム開催	戸建て820kg-CO <sub>2</sub> /棟 メゾン1,044kg-CO <sub>2</sub> /棟 「しぜんごこちの家」3階建(大宮)建設公開 くらしノバージョンフォーラム開催
	③高効率・省エネ設備の普及促進 CO <sub>2</sub> 排出量削減目標:354kg-CO <sub>2</sub> /年・棟	356kg-CO <sub>2</sub> /年・棟
	④次世代省エネ基準の住宅供給率向上→目標98.9%	実績99.2%
アフター分野での環境貢献	①ロングライフプログラムの推進に向けて定期点検での維持管理に関する啓発活動の実施 雨戸、サッシなどの機能部品についての廃盤品の代替仕様、部品製作を実施:本体一式交換でなく部品交換で対応する 外壁塗替え15年自社カバー率65% 屋根防水貼替え20年自社カバー率80%	定期点検は、ほぼ100%実施し、その中でお客様で行っていただく維持管理を伝えてきた 30年前の雨戸・サッシの部品製作を行った。本体一式交換でなく部品交換で対応できる事を目指した 外壁塗替え自社カバー率66.1% 屋根防水貼替え自社カバー率75%
	②ストック流通仲介の促進 ストックの長期利用による建替廃棄軽減→目標180棟/年	実績200棟/年
	③既存住宅の環境負荷低減→CO <sub>2</sub> 削減量 4,200 t/年	合計 4,119t/年
	④長寿命化による建替え廃棄軽減	①~③による寿命確保
CO <sub>2</sub> 排出量の把握と削減	①事務活動(工事管理含む)CO <sub>2</sub> の把握と削減→原単位1%削減(事務所電力・社有車燃料)	原単位9.1%削減
	②工場生産エネルギー原単位 住工:2012年度売上高比1%削減 建材:2012年度生産量比1%削減	住工:2012年度売上高比1.7%削減 建材:2012年度比1.3%削減
	③輸送活動CO <sub>2</sub> の把握と削減 原単位1%削減の継続 モーダルシフトの推進	原単位4.7%増 モーダルシフト継続実施
	④施工活動CO <sub>2</sub> の把握と削減→原単位1%削減	原単位横ばい
産業廃棄物の削減	①新築現場施工で発生する産業廃棄物の削減継続(1.87→1.60t/棟の実行)	平均1.73t/棟 (9営業本部中、6営業本部で1.6t/棟ほぼ達成)
	②工場生産で発生する産業廃棄物の削減継続 住工:2012年度売上高比10%削減 建材:最終理め立て処分ゼロを継続	住工:2012年度売上高比17.3%削減 建材:最終理め立て処分ゼロの継続達成
	③新築及びアフターメンテナンスの現場施工で発生する産業廃棄物の再資源化推進→最終処分率0.55%以下	最終処分率0.53%
省資源の推進	①事業活動における紙使用量の把握と削減 原単位1%削減(対前年度比)(22.2kg/戸・年)	原単位2.7%減(対前年度比)
	②事業活動における水使用量の把握と削減 住工:原単位2012年度売上高比0.8%増加 建材:地下水採取における法令遵守の達成(水使用量原単位6.3%増加)	住工:原単位2012年度売上高比0.8%増加 建材:地下水採取における法令遵守の達成
生物多様性の保全	①生物多様性に配慮した住まいづくりの推進(暮らし・植物・動物)	「あさひ・いのちの森」での生物多様性への取り組み成果を都市住宅の庭に展開検討
	②木材グリーン調達方針の推進着手、森林供給源の特定 今後2年をかけて(2014年度までに)、現在の認証材比率50%を70%以上に引き上げて行く	現状の認証材(認証過程材を含む)の採用比率を再調査 →結果 67.6% 残りの大半を占める「床材」について再度課題の確認と対策の検討を行う
化学物質の使用量・排出量削減	①部材選定基準の再設定の実施 東西物流センターエリア別での実態調査を継続実施	建材資材のVOC放散量調査 (床材、接着剤の放散速度把握) 現場実態調査を継続実施。
	②工場における大気汚染・水質汚濁防止の継続(自主基準値以下)	住工:達成 建材:達成
環境教育・啓発	①環境意識啓発活動の実施	「しぜんごこちの家」普及活動 小学校出張授業の推進 小学生向け環境イベント開催の推進  富士支社の対外的な活動の一環で以下のイベントに参加(ホテル祭り、支社敷地周辺の清掃活動など) 富士市内の学校の教育プログラムに協力 13年度実績:富士常葉大学旭化成講座、田子の浦中学出前授業(2012年と同様)
	②EcoソウさんClub新規登録数300家庭 へーベリアネット連携企画 「2013年夏の省エネキャンペーン」計画	EcoソウさんClub新規登録数447家庭(総数3,842家庭) EcoソウさんClub活動報告~10年を振り返って~ へーベリアネット連携企画「2013年夏の省エネキャンペーン」実施 【キャンペーン参加者】 対2012年7-9月CO <sub>2</sub> 削減25-28% 【会員全体】 対2012年7-9月CO <sub>2</sub> 削減平均2% 対2010年7-9月CO <sub>2</sub> 削減平均22%(電気、ガス、水道)
	③地域社会の環境活動への参加	旭化成住工にて実施
	④「あさひ・いのちの森」の生長支援→維持管理の継続	「あさひ・いのちの森」の維持管理活動を継続実施
法令遵守	①産業廃棄物の適正処理実施(当社排出分)事故発生ゼロ	事故なし

評価	関連頁	2014年度計画	中期目標(~2015年度)
😐	22	目標値【9.8】	CO <sub>2</sub> 貢献度【10.0】以上
😐	22	戸建て856kg-CO <sub>2</sub> /棟 メゾン1,098kg-CO <sub>2</sub> /棟	環境配慮商品による環境貢献
😊	22	自然の恵み(光・風など)を巧みに取り入れる設計ガイドライン作成	省エネ型給湯器の100%採用
😊	22	358kg-CO <sub>2</sub> /年・棟	供給率99.5%
😊	22	目標99.3%	
😐	23	ロングライフプログラムの推進:定期点検における維持管理の必要性の啓発を維持する。 エコ商品拡販	「ロングライフプログラム」の自社実施率80%
😊	23	目標200棟/年	累計2,000棟
😐	24	CO <sub>2</sub> 削減量 4,300 t/年	CO <sub>2</sub> 削減量 4,500 t/年
😊	23	長寿命による建替え廃棄削減	ロングライフ住宅による環境貢献
😊	24	原単位1%削減	原単位1%削減継続【対前年度比】
😊	24	工場生産エネルギー原単位 住工:2013年度売上高比1%削減 建材:エネルギー原単位又は電気需要平準化評価原単位の対前年度比1%削減	住工:原単位1%削減継続【対前年度比】 建材:原単位1%削減継続【対前年度比】
😞	25	原単位1%削減継続【対前年度比】 環境対応車の増車(ハイブリッド・CNG) 拠点再編、幹線物流の見直し	原単位1%削減継続【対前年度比】
😞	24	工期短縮による原単位削減	原単位1%削減/年平均
😐	26	1.60t/棟	1.60t/棟
😊	26	産業廃棄物原単位 住工:2013年度売上高比10%削減 建材:最終理め立て処分ゼロの継続	旭化成住工:前年度売上高比維持継続 建材:最終理め立て処分ゼロの継続
😊	26	最終処分率0.52%(アフター分の資源循環センター扱い量の拡大)	最終処分率0.5%以下
😊	—	原単位1%減	原単位1%削減継続【対前年度比】
😞	—	住工:原単位2013年度売上高比1%削減 建材:地下水採取における法令遵守	住工:原単位1%削減継続【対前年度比】 建材:地下水採取における法令遵守の継続
😐	14,15	「あさひ・いのちの森」生物多様性等についての調査 継続 生物多様性に配慮した都市住宅の庭への展開	生物多様性住まいづくりの普及
😊	27	認証材(認証過程材を含む)の比率を70%以上とするため、「床材」の課題確認と対策の検討を継続する 2014年度内に目標達成を目指す	認証材(認証過程材を含む)の使用(70%)
😐	—	内装健康仕様に向けた技術確立 現場実態調査を継続	低TVOC環境の実現
😊	27	自主基準値以下の継続	自主基準値以下の継続
😊	22,30	「しぜんごこちの家」普及の推進 出張授業の推進 環境イベントの開催	環境意識の浸透
😊	—	継続	随時実施
😊	29	EcoソウさんClub新規登録数300家庭 へーベリアネット連携企画「2014年夏の省エネキャンペーン」計画	③エネルギーDBを搭載したコミュニケーションツールとしての運用
😊	31	地域社会の環境活動への参加拡大	参加人数の拡充、活動の充実
😊	14,15,27	継続	地域社会への定着
😊	26	事故発生ゼロ	事故・トラブルの撲滅

# 旭化成ホームズグループと環境のかかわり

お客様へ快適な住まいをお届けする事業の過程で、さまざまな環境への影響が生じます。旭化成ホームズでは、住まいの開発・設計、工場生産、輸送、施工段階での省エネルギー、省資源、廃棄物削減などに努めることはもちろん、お客様がお住まいになってからのエネルギー消費を低減できる商品開発にも取り組み、広い視野に立った環境配慮のもとで事業を展開しています。



環境に関する取り組み

環境に関する取り組み

# 低炭素社会へ向けて

旭化成ホームズは、ヘーベルハウスによる自然の恵みを利用した設備の導入や自然を享受する住まい方提案、事業活動に伴うCO<sub>2</sub>の削減を通して、低炭素社会の実現に取り組んでいます。

## LCA\*1・CO<sub>2</sub>削減貢献度の拡大

「LCA・CO<sub>2</sub>削減貢献度」とは、開発・設計などの事業活動に伴う年間CO<sub>2</sub>排出量を分母とし、断熱性能や太陽光発電システムなどの設備による年間CO<sub>2</sub>削減効果を分子として算出される指標で、その数値が高いほど貢献度が高いと見なされます。事業活動による環境負荷が小さくなり、製品提供による環境貢献が大きくなるほどこの指標は高くなります。

2013年度の貢献度は、目標値9.8に対し9.7。これは、輸送エネルギーが出荷拠点の一時限定化により増加したこと、太陽光発電が補助金停止の影響で予想ほどは伸びなかったことによるものです。

今後も製品提供によるCO<sub>2</sub>削減をさらに推進させるとともに、事業活動によるCO<sub>2</sub>排出削減に努めていきます。

\*1 LCA: ライフサイクルアセスメント。製品の設計・製造から廃棄に至る全段階の環境負荷を科学的・定量的に評価する手法。

## LCA・CO<sub>2</sub>削減貢献度の指標化 2013年度目標：9.8→実績：9.7

### LCA・CO<sub>2</sub>削減貢献度計算式

$$A1 \text{ 断熱性能(次世代省エネ)による年間CO}_2\text{削減効果 } 402,084 \text{ t-CO}_2\text{/年} + A2 \text{ 創エネ・高効率・省エネ設備による年間CO}_2\text{削減効果 (太陽光・太陽熱・エコウィル・燃料電池・エコジョーズ・エコキュート・省エネ換気) } 589,961 \text{ t-CO}_2\text{/年}$$

### LCA・CO<sub>2</sub>削減貢献度

\*新築のみの指標・評価です。

$$\frac{A. \text{ヘーベルハウスによるCO}_2\text{削減効果 [環境貢献]} + B. \text{事業活動に伴うCO}_2\text{排出 [環境負荷]}}{B. \text{事業活動に伴うCO}_2\text{排出 [環境負荷]}}$$

A=ヘーベルハウスが世の中で貢献するトータル効果 [年間CO<sub>2</sub>削減効果×製品寿命60年]  
B=ヘーベルハウス提供に関する事業活動に伴うCO<sub>2</sub>排出 \*年間CO<sub>2</sub>削減効果はLCA・CO<sub>2</sub>で評価

$$B1 \text{ 事業活動に伴うCO}_2\text{排出量(開発・設計) } 6,734 \text{ t-CO}_2\text{/年} + B2 \text{ 事業活動に伴うCO}_2\text{排出量(工場生産) } 47,431 \text{ t-CO}_2\text{/年} + B3 \text{ 事業活動に伴うCO}_2\text{排出量(輸送) } 26,255 \text{ t-CO}_2\text{/年} + B4 \text{ 事業活動に伴うCO}_2\text{排出量(施工) } 22,048 \text{ t-CO}_2\text{/年}$$

2013年度の実績数値 2013年度の実績9.7とは事業活動でのCO<sub>2</sub>排出量を1とした場合、ヘーベルハウスによる2013年度のCO<sub>2</sub>削減量が9.7になるということです。

A2 = 589,961 t-CO<sub>2</sub>/年 (内訳)

● 太陽光発電システム	412,190 t-CO <sub>2</sub> /年	● 燃料電池	35,234 t-CO <sub>2</sub> /年	● 省エネ型常時換気システム	52,698 t-CO <sub>2</sub> /年
● 太陽熱温水器	291 t-CO <sub>2</sub> /年	● エコジョーズ	38,162 t-CO <sub>2</sub> /年		
● エコウィル	5,978 t-CO <sub>2</sub> /年	● エコキュート	45,408 t-CO <sub>2</sub> /年		

## 3階建て初の「しぜんごこちの家」 街かどヘーベルハウス大宮東町(五更観月の家)

くらしノバージョン研究所はこれまで自然を住まいに取り入れ、その心地よさを楽しみながら暮らす知恵を盛り込んだ「しぜんごこちの家」を展開してきましたが、2013年9月に、そのコンセプトを搭載したモデル、街かどヘーベルハウス大宮東町を竣工しました。今回は初の3階建て住宅となります。

これまでの2階建モデルでは、ひかり・かぜを取り入れるための家の「かた」を提案してきましたが、今回は、さらに、「夫婦の居場所」「家族の居場所」「ひとりの居場所」という家族のつながりをテーマにした場づくりを行いました。円居(まどい)、家居(いえい)という団欒のあり方や、ぼんやりできる場なども追求し、生活シーンを深掘りした提案を行っています。これはひかり、かぜなどを上手に取り込む場に、家族の居場所を重ねることで、より大

きな心地よさが得られるという研究成果に基づいています。

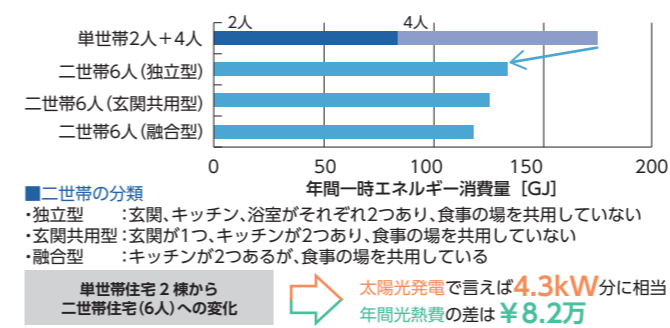


街かどヘーベルハウス大宮東町外観

## 環境に配慮した住まいの形

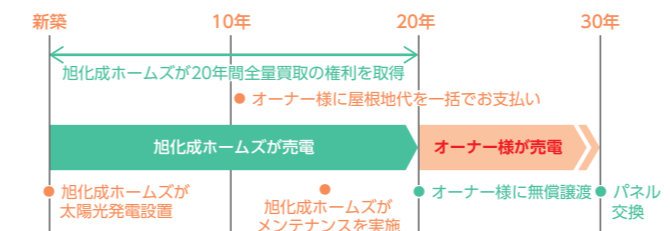
### 二世帯住宅で地球環境に貢献

二世帯住宅のさきがけである当社は、環境配慮や省エネルギーの観点からも、二世帯住宅について研究を進めてきました。くらしノバージョン研究所の研究によると、親世帯、子世帯別々に暮らす場合に比べ、二世帯住宅(6人)ではエネルギー消費が減り、その差は、太陽光発電で言えば4.3kW分に相当します。(年間光熱費の差は8.2万円) 要因は、「床面積が減ることにより冷暖房機・照明が減る」「単世帯2棟に比べて二世帯1棟の方が壁面積が減る」「親子両世帯で一緒に過ごす生活シーンがあること」があげられます。当社はこれからも、さまざまな暮らしのご提案を通じて、地球環境に配慮した住まいの形をご提案していきます。



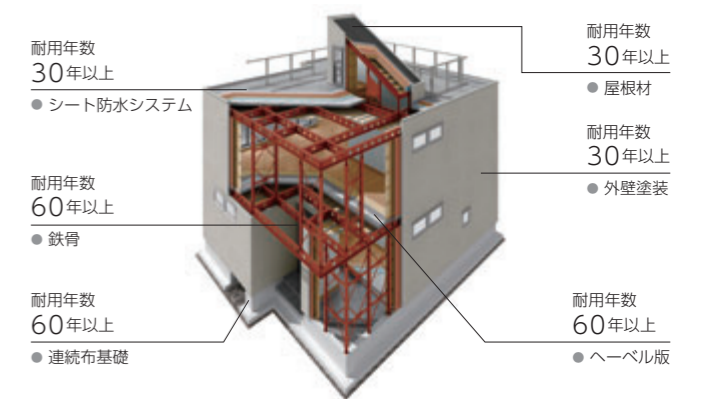
### ヘーベルメゾン 安心ECOサポート

当社は、地球環境にやさしい自然エネルギーの利用を拡大する取り組みとして、太陽光発電パネルの設置を推進しています。取り組みの一環として、戸建て住宅のみならず、賃貸住宅ヘーベルメゾンの太陽光発電100%設置を目指しています。さらに、オーナー様のご負担を軽減するために、初期投資ゼロで太陽光発電導入をサポートする独自の「旭化成 安心ECOサポート」を2013年10月よりスタートさせ、6か月間で260棟のご採用をいただきました。ECOサポートとはオーナー様にご建築いただくヘーベルメゾンの屋根をお借りして、当社が太陽光発電を設置・売電し、オーナー様には地代をお支払いするシステムです。20年間分の地代を11年目に一括払い、20年経過後はオーナー様に無償にて機器および売電権利を譲渡させていただきます。オーナー様ご自身が設置した場合と同等、またはそれ以上の収入となるような地代設定により、収益的にもご安心いただけるシステムとなっています。地球環境のために今できることとして、今後も益々の採用を推進していきます。



## ロングライフプログラム

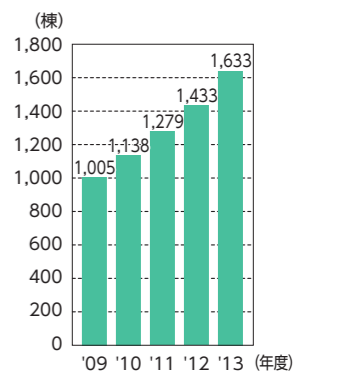
当社は、邸別のカルテに基づいた60年にわたる計画的なメンテナンスを導入・実施しています。鉄骨をはじめとした主要構造の耐用年数を60年以上、陸屋根防水などの各部材の耐久性を30年に高めたことで、部材の交換・補修を30年目にまとめて行える「ロングライフプログラム」は、メンテナンスにかかる費用を低減しながら、住まい全体で60年以上の長期耐用を実現しています。また、「60年点検システム」は、きめ細かな点検を定期的に行うことで、建物の不具合や劣化を事前に防ぎます。これら二つのメンテナンスが、快適な住み心地と資産価値を長く維持する「ロングライフ住宅」の考え方を支えています。



## ストックヘーベルハウスの実績

旭化成不動産レジデンスでは、1999年からヘーベルハウスの中古物件を対象とする仲介事業「ストックヘーベルハウス」を展開しています。住宅は、適切な時期に適切なメンテナンスを施していれば、築年数を重ねても高い価値をそなえた資産となります。住宅を、建てては壊す消費財としてではなく、受け継がれる価値のある資産として考え、敷地と建物を別個に査定する独自のシステムによってその価値に見合った価格で販売する。「ストックヘーベルハウス」のこのしくみも、「ロングライフ住宅」の重要な側面です。その販売実績は年々向上しており、2013年度の仲介実績は前年度比30%増の200棟で、累計実績は1,633棟になりました。

### ストックヘーベルハウス累積棟数の推移



## 既存住宅の環境負荷を低減「エコリフォーム」

太陽光発電やエネルギーの自給自足についての関心の高まりとともに、既存のヘーベルハウスに太陽光発電、家庭用蓄電システムなどを設置する「エコリフォーム」を希望されるお客様が増えています。このため旭化成リフォームでは、メンテナンスの一環として、住宅の構造などへの影響を抑えながら短い工期でそうしたニーズにお応えする独自の仕様や工法を開発しています。

太陽光発電システム、窓まわり断熱の2013年度の実績は次の通りです。

### 太陽光発電システム

2013年度実績は2,845棟と前年度比約22%の増加となりました。



### 窓まわり断熱

2013年度実績は1,146棟と前年度比約4%の増加となりました。

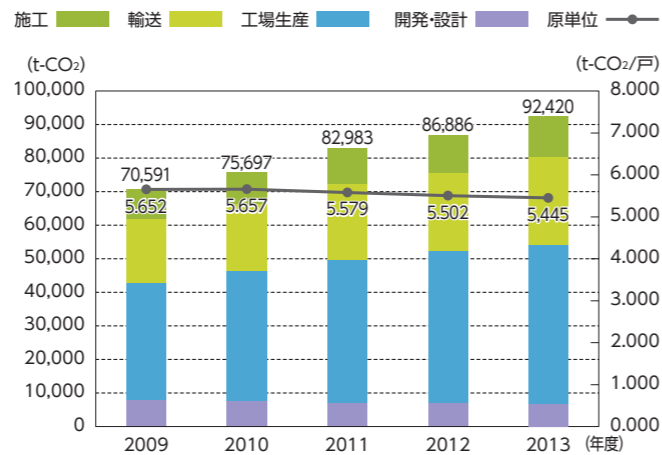


## 事業活動に伴うCO<sub>2</sub>排出の低減成果

「開発・設計」から「工場生産」「輸送」「施工」の各段階(P.20~21参照)における事業活動のCO<sub>2</sub>排出については、それぞれのエネルギー使用量から排出量を把握し、原単位の削減に取り組んでいます。2013年度は、事業活動全体の原単位では前年度比1.0%削減目標を達成しましたが、段階別では、達成できた部分とできなかった部分がありました。施工段階では、大きな構法変更や工期短縮などがなかったことから今回も横ばいでしたが、工場生産では、旭化成住工における燃料転換(重油灯油の都市ガス化)の効

果により原単位は改善しています。また、開発・設計段階では、節電の取り組み継続により総量・原単位ともに改善しましたが、輸送段階では、一部躯体部材の出荷拠点が限定化されたことなどもあり原単位はやや悪化しました。

### CO<sub>2</sub>排出量の推移



施工：大きな構法変更がなく、工期・工数も横ばいのため原単位も横ばい  
 輸送：一部部材の出荷拠点が限定化されたことと調達物流拡大(他社物流の取り込み)により、原単位はやや悪化[当社荷主分]  
 工場生産：総量は横ばいだが、原単位は改善継続  
 開発・設計：2013年度は引き続きの節電アクションにより、総量・原単位とも改善

## 工場におけるCO<sub>2</sub>低減活動

### 旭化成住工の取り組み

旭化成住工滋賀工場(省エネ法の第一種エネルギー管理指定工場)は、継続してエネルギー原単位(売上高比)1%以上削減の省エネに取り組んでいます。2013年度のエネルギー原単位は、前年度比で1.7%の削減となりました。CO<sub>2</sub>排出量原単位(売上高比)も前年度比で10.9%削減しています。2013年度に実施した主な省エネ活動は、滋賀工場及び厚木製造部に売電と節電を目的として、発電能力がそれぞれ384kwと134kwの太陽光発電パネルを設置しました。年間の売電量は滋賀工場で437,930kWh、厚木製造部で92,457kWhの実績となりました。

また、滋賀工場内の倉庫棟の照明(蛍光灯)を安定器式ラピッド形からHf形(高周波点灯蛍光灯)に変更し、電力消費量の削減に効果がありました。各製造ラインでは、計画的にエア配管の漏れ確認と修理を実施し、エアコンプレッサの負荷低減による電力使用量の削減に寄与しています。

### 旭化成建材の取り組み

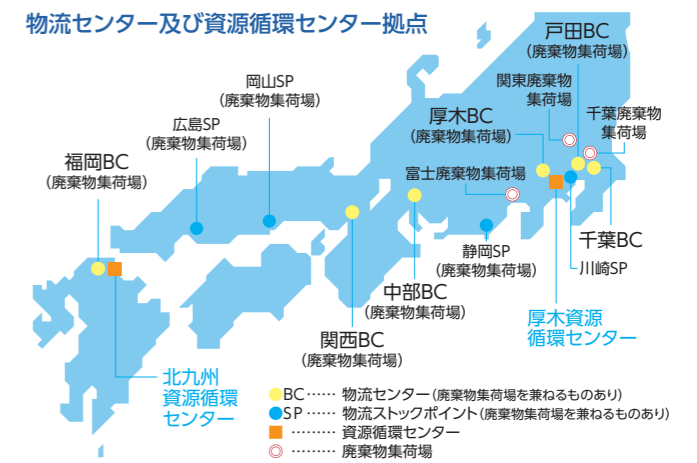
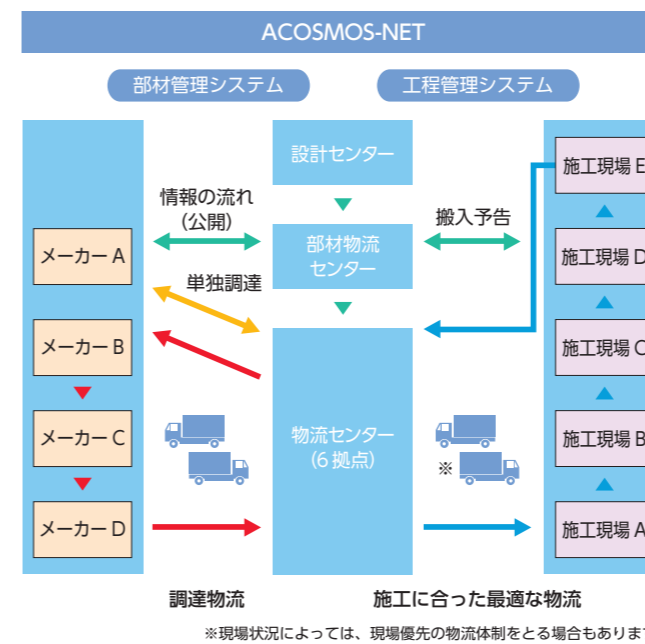
旭化成建材の各工場では、オートクレーブ蒸気の回収使用やボイラー、圧縮機等を高効率機種に更新することで継続的に省エネルギーへの取り組みを行っています。こうした取り組みの効果により、エネルギー原単位は前年度比で約1.3%削減しました。しかしながら、震災以降の火力発電比率の増大に伴い、電力のCO<sub>2</sub>排

出係数が悪化したことに加え、対前年度比でヘーベルとネオマ工場を合わせた換算生産量が約5%増加したことにより、CO<sub>2</sub>排出量は逆に約8%増加しました。(ヘーベル・ネオマ工場全体)

## 輸送活動における取り組み

当社の主な輸送活動は、全国各地に存在する新築現場に対して、それぞれに個別の部材を適切な時期に輸送するという他業種にはない大きな特徴があります。これらの物流を効率的に行うことができるよう、全国に物流センターを6箇所、ストックポイントを4箇所設け、そこから適時に部材を出荷しています。この物流を支援しているのが、現場の工程管理システムに部材の納材システムを連動させた納材工程システムです。このシステムによって複数の部材を工程ごとに納入するといった効率的な物流が可能になっています。また、輸送のモーダルシフト化や物流センター間の部材の大量輸送を行う幹線物流の導入、同業他社との共同調達なども定着した取り組みとなっています。2013年度は、資材メーカーからの物流をサプライヤー物流から当社の調達物流に変更したこと(物流の内製化)や、一部部材の出荷拠点が限定されたことから、物流に係るエネルギー原単位が前年度比4.7%増加しています。これらについては、継続的にモニタリングを行い、改善策を検討していく必要があると考えています。

### 物流システムの概要



## 低公害車の導入

物流センターから各工事現場へ部材を輸送する車両に、ハイブリッド、CNG(天然ガス自動車)などの環境対応車の導入を促進しています。現在、所有している輸送車両652台のうち、これら環境対応車は39台となっています。今後も車両の入れ替えにおいて環境対応車への切り替えを順次実施していきます。

## Scope1~3におけるCO<sub>2</sub>排出量(2013年度)

従来から扱っているCO<sub>2</sub>の範囲に加え、サプライチェーン全体での間接的な排出量についても2013年度から把握を開始しました。我々の事業活動が、原材料の調達から製品の使用・廃棄に至るまでの環境負荷にも大きく関わっている事をしっかりと認識した上で、より広い視野からのCO<sub>2</sub>削減活動に取り組んでいきたいと考えています。

Scope3 96.8%(2,315,700t-CO <sub>2</sub> )	
物品購入・サービス 31.6%(755,600t-CO <sub>2</sub> )	販売製品の使用[居住]* 59.3%(1,419,500t-CO <sub>2</sub> )
Scope1,2 3.2% (76,200t-CO <sub>2</sub> )	輸送・流通 2.4%(57,300t-CO <sub>2</sub> )
<開発・設計、工場生産、施工、解体>	販売製品の処理 2.5%(59,000t-CO <sub>2</sub> )
	その他 1.0%(24,300t-CO <sub>2</sub> )

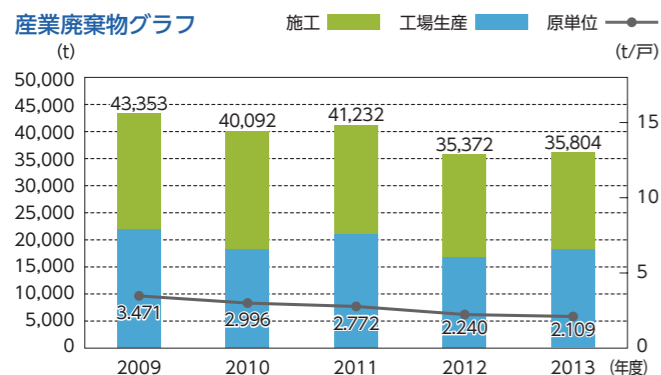
Scope1~3:「GHGプロトコル」(国際的評価基準)によるCO<sub>2</sub>排出量の算定範囲  
 Scope1:企業活動からの直接CO<sub>2</sub>排出量(工場での燃料使用など)  
 Scope2:企業活動のエネルギー使用による間接CO<sub>2</sub>排出量(事業所での電力使用など)  
 Scope3:Scope2以外の間接CO<sub>2</sub>排出量(原材料の調達・物流や製品の使用・廃棄など)  
 \*1 販売製品の使用[居住]の年数は、60年で設定しています。

# 循環型社会へ向けて

旭化成ホームズは、事業活動に伴って発生する廃棄物の削減とリサイクルを積極的に推進しています。また、施工現場では廃棄物削減のための独自の取り組み「AHS1(アースワン)<sup>\*1</sup>プロジェクト」を導入するなど、循環型社会に向けた活動を展開しています。

## 事業活動における産業廃棄物削減の取り組み

産業廃棄物削減については、3R(リデュース・リユース・リサイクル)の観点から総合的に取り組んでいますが、最も環境負荷低減に寄与できるのは、リデュース(発生抑制)と考えています。2013年度の工場及び新築施工での発生量は、総量では横ばいでしたが、原単位は約6%改善できました。これは後述の施工現場における取り組みの成果です。全社の合言葉は、引き続き「ムダなものを入れない!」です。そして排出時には「やむを得ず出たものをリユース・リサイクル」という意識を常に持ち続けること。これが廃棄物のスリム化につながると考えています。



## 工場における取り組み

### ゼロエミッションの達成(旭化成住工)

旭化成住工では、2003年度に最終埋立処分量を0にするゼロエミッションを達成・継続しています。具体的には、生産計画と連動した厳密な調達計画によって、原料・資材(鋼材・梱包材)の工場受け入れのムダを削減するリデュース活動を中心に、発生した排水汚泥、鉄、プラスチックくず等の廃棄物を、再使用・再生利用するリユース・リサイクル活動を実施しています。

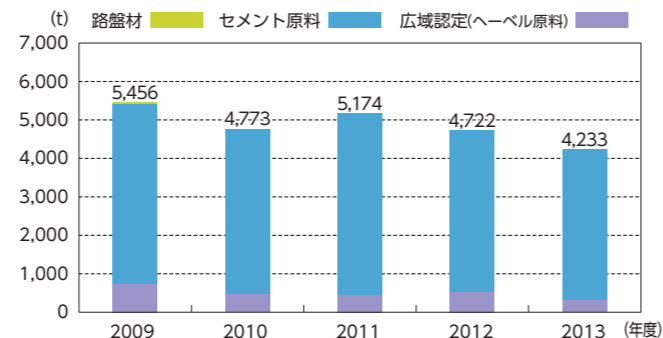
2013年度はそれらの活動の継続の結果、総量で前年度比約11%、原単位(売上高比)でも前年度比約17%減少しています。

### 「ヘーベルパネル廃材」の広域リサイクルシステム(旭化成建材)

旭化成建材は、1997年に広域再生利用指定、2004年に広域認定を受け、建設現場の軽量気泡コンクリートパネル「ヘーベル」の

廃材を穂積工場、岩国工場、境工場でヘーベルパネルの原料にリサイクルし、使用しています。また、関東地区では、他の企業と連携したリサイクルシステムを確立し、現場から回収されたヘーベルパネル廃材をセメント原料や軽量人工土壌としてリサイクルしています。

### ヘーベルパネルリサイクル量の推移(廃材発生量の推移)



## 施工現場における産業廃棄物削減活動

当社では、新築施工現場で発生する廃棄物の全量リサイクル、及び発生量の削減に取り組んできました。建築現場において26品目に分別された廃棄物を、各地区の集荷場を経由して全国に2箇所ある資源循環センターに集約し、徹底分別を行い全量リサイクルしています。さらには資源循環センターに固形燃料(RPF)製造設備を導入し、自社での再資源化にも取り組んでいます。削減への取り組みとしては「AHS1(アースワン)<sup>\*1</sup>プロジェクト」と名づけた活動を行い、資源循環センターでは廃棄物の重量を全量計測し、翌日には施工部門にフィードバックすることで削減への取り組みを強化しています。

ヘーベルハウスの新築現場では多くの職種が入り出しているため、分別意識を高い水準に保つことが重要なポイントとなっています。2013年度のプロジェクトの実績は、前年度から140kg/棟の削減、当初のベンチマーク(2010年度)からの比較では660kg/棟の削減が実現できました。2014年度は取り組みが遅れている部分の推進により残り130kg/棟の削減を目指します。なお、このプロジェクトは2013年度までの取り組みで一定の成果が確認できたため、2014年度からはプロジェクトとしての目標は設定せずに、活動を継続実施し、廃棄物発生量をモニタリングしていきます。

<sup>\*1</sup> AHS1:Asahikasei Haikibutsu Sakugen 1t(トン)の略

# 自然共生社会へ向けて

旭化成ホームズは、自然再生、近隣との共生を目指した森づくりや生物多様性に配慮した木材調達、化学物質の適正管理などを通して、自然を大切にできる社会の実現に向けた取り組みを進めています。

## 「あさひ・いのちの森」

静岡県富士市・住宅総合技術研究所の一角にある「あさひ・いのちの森」は、富士川河口流域の原風景の再現を目標とした、多様な自然再生、生物多様性保全活動に取り組むビオトープです。

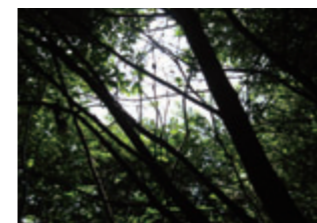
森の誕生から7年間、これまで様々な活動を行ってきましたが、2013年度は、里山林再生区で間伐(部分伐採)を行いました。

自然林の再生は自然のあるがままにまかせて生長を見守りますが、日本における里山林の多くは薪や炭の材料として伐採、再生を繰り返し林内の植生や生き物の多様性を維持してきたという背景があり、それを再現しようという試みです。自然と人の活動が交わることで自然林とはまた違った自然の形態を維持し、自然・環境学習の場としても活用されることを目指します。

また、地域の方々との交流活動の一環として旭化成(株)富士支社が主催する森での毎年のホテル観賞会も地域の一大イベントとして定着しています。2014年5月30日から3日間の鑑賞会では延べ4,000人以上の方が来場され、当社社員も運営スタッフの一員として参加し、皆様と一緒にホテル観賞を楽しみました。



間伐作業の様子



林内の様子



伐採前



伐採後

## 木材調達における生物多様性の取り組み

ヘーベルハウスでは木質系住宅と比べて木材使用量は多くないものの、下地材や内装材などで年間約4万㎡の木材や木製品を使

用していることから、木材の責任ある調達に取り組んでいます。2013年度は、木材認証材(認証過程にあるものを含む)の比率を68%まで向上させました。2014年度に残っている床材等の認証を進め、目標の70%を目指します。

### 木材調達方針 目標と計画

目標	2012年度	2013年度	2014年度
STEP1	100%達成	→継続	→継続
STEP2	100%達成	→継続	→継続
STEP3	順次向上	順次向上	70%達成目標

STEP1:森林供給源の特定  
STEP2:伐採権の確認  
STEP3:認証材の使用(認証過程材を含む)

## 化学物質の自主基準値以下の運用

生産段階での灯油や重油の使用による大気汚染、工場排水による水質汚濁については、いずれも定期測定を実施し、法規制値を大幅に下回っていることを確認しています。化学物質については、旭化成住工で使用するキシレンとトルエン、旭化成建材で取り扱うキシレン、フェノール、1,2,4-トリメチルベンゼン、ホルムアルデヒド及びメチルナフタレンがPRTR<sup>\*1</sup>の対象物質となっています。

旭化成住工では、生産量の増加に伴い、トルエンの排出が10,570kg/年と約2割増加しましたが、一方のキシレンについては2013年12月より塗装乾燥バーナー燃料の灯油を都市ガスに変更したため、8,200kg/年と約2割減少しており、今後もさらに減少できる見通しです。

旭化成建材で取扱量の多いホルムアルデヒドについては、排ガス処理設備により大気への排出を防止しており、フェノールとともに微量の排出にとどまっています。また、A重油中に含有されるメチルナフタレン、灯油中に含まれる1,2,4-トリメチルベンゼンとキシレンは、多くは燃料として燃焼消費されるため、大気への排出量は少量です。

今後も該当法令に従い適正に管理するとともに、より安全性の高い物資への代替検討を進めていきます。

<sup>\*1</sup> PRTR:事業所から大気、水、土壌への化学物質の排出量、事業所外への移動量を把握、国に届け出る制度。

# 社会との価値共創へ向けて

旭化成ホームズは、企業と社会が共に価値を創造する「共創」を環境方針の重要キーワードに掲げ、社会の皆様とともに、事業を通じて未来世代へ貢献する活動を展開しています。

## 「イマドキ親世帯」のニーズに即した、二世帯住宅の新たな形「都市の実家」

当社は、1975年に「二世帯住宅」を商品化し、1980年に二世帯住宅研究所を設立。調査を踏まえて時代の変化に応える二世帯住宅を提案してきました。2013年に発売した親世帯、子世帯に加え単身の兄弟姉妹が同居する「2.5世帯住宅」も、晩婚化、非婚化の時代を反映した新しい住まいの考えです。そして2014年度は、親世帯・子世帯の意識や関係性について、世代ごとに比較調査を実施、その結果をもとに、新たな二世帯住宅「都市の実家」を発売しました。

調査から、当社の二世帯住宅にお住まいの親世帯の約半数を占める1940年～1949年生まれの「イマドキ親世帯」は、遠くに住む子世帯との交流が盛ん、同居子世帯とお互いの自立性を尊重していること、地域との繋がりが緊密であることなどがわかりました。このため「都市の実家」では、同居していない子世帯が気軽に集まって泊まれるなど、コンパクトながらもそれぞれの世帯も多目的に活用できる様々なアイデアを盛り込み、二世帯住宅の新しい形を追求しています。今後も、時代の変化を捉えながら、長く住み継いでゆける二世帯住宅のあり方を提案していきます。



同居していない子も含めた家族全員が集っても、楽しく食卓を囲むことができるように、ビッグテーブルを中心にキッチンセットや食器棚などで囲むようにレイアウトしました。コンパクトなTVコーナーや来客や在宅介護への活用を考えたタタミリビングと組み合わせて合理的な空間構成としています。

## 高経年マンションの建替え事業でグッドデザイン賞を受賞

旭化成不動産レジデンス株式会社の「マンション建替え研究所」が公益財団法人日本デザイン振興会主催の「2013年度グッドデザイン賞」を受賞しました。

高経年マンションの再生はわが国の重要な課題となりつつあります。マンション建替えは区分所有者の5分の4以上の同意が決まりますが、その合意形成の主体となる管理組合には建替えに関する知見が乏しいため、専門家のサポートが必要となります。今回、旭化成不動産レジデンスは「公共のためのサービス・システム」というカテゴリーにて応募しており、具体的なマンション建替えの「作品」ではなく、マンション建替えを実現するための「仕組み」として受賞するのは今回が初めてとなります。

これからも当社グループはハード面だけでなく、様々なご提案を通じて、社会へ貢献する企業であり続けます。



横浜市では初の円滑化法による建替組合施行の事例 旧・野毛山住宅



建替え前



旧・同潤会 江戸川アパートメント 建替え後

## さまざまな事業との新たな化学反応を生み出す舞台、実証棟「HH2015」

旭化成グループの中期経営計画「For Tomorrow 2015」の一環として「環境・エネルギー」「住・くらし」「医療」の3つの分野で新規事業の展開を目指して取り組む、「これからプロジェクト」。

その各分野におけるグループ内外の最新技術・製品を実際の建物に搭載し、機能やデザインなどの実用性や事業性を検証しているのが、富士市の旭化成ホームズ住宅総合技術研究所の敷地内に建設された実証棟「HH2015」です。

“緑と絆を育てるインテリア”として2013年10月に発売した卓上水耕栽培キット「ベジユニ」もここで生まれました。

土を使わずLEDの光で育つので部屋の中で手軽に栽培できます。「緑」を育てる過程で、様々な体験や想いを共有し、家族の「絆」を深めるきっかけとなることで、“豊かなくらし”の実現に貢献します。これからも社会の変化を先取りした技術を集めて、旭化成グループとさまざまな事業との新たな化学反応を生みだしていきます。



実証棟HH2015外観



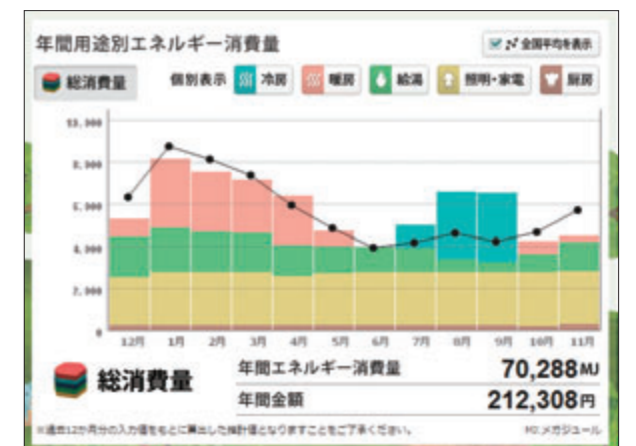
卓上水耕栽培キット「ベジユニ」

## 独自のコンテンツで家庭の省エネルギー意識向上を目指す「EcoゾウさんClub」

当社は、ロングライフ住宅の開発や自然の恵みを活かした住まいの提案を通じて環境との共生を推進する一方で、家庭の省エネルギーを支援するWEBサイト「EcoゾウさんClub」の活動に取り組んでいます。このWEBサイトでは、毎月の簡単な入力作業だけで、電気、ガス、水道、ガソリン、灯油の使用量やゴミ排出量削減の度合いを「見える化」し、家族で気軽に環境意識を共有することができます。

2002年に始まったこの活動の会員数は2013年12月現在約3,600家庭で、着実に増え続けています。2014年6月には「EcoゾウさんClub活動報告書～10年を振り返って～」を発行しました。一般に同様の活動が定着しづらい中、10年以上にわたって活動を継続できた背景には、会員ランキング表示や省エネ診断、用途別の使用量推定グラフ表示など、大人も子供も楽しみながらエネルギー消費を見直せるオリジナルコンテンツの工夫があります。また、2009年から「Ecoゾウさん通信」を毎月発行、会員相互の情報交換の場を提供している他、ヘーベルハウスにお住まいの方が参加する毎年恒例の「夏の節電・省エネチャレンジ」などを通じた省エネルギー意識啓発に努めています。今後も、この活動を通じて家庭部門での省エネルギーに貢献していきます。

EcoゾウさんClubホームページ  
<http://www.ecofootprint.jp/>



## 「地球教室」「出前授業」など 子供向け環境意識啓発活動を継続

旭化成は、朝日新聞社の小学生向け環境教育プロジェクト「地球教室」に、2008年度から毎年協賛しています。2013年9月29日に有楽町朝日ホールで行われた「かんきょう一日学校」では、くらしノベーション研究所の研究者が講師を務めました。また、研究所では首都圏の小学校などを対象に環境についての「出前授業」を継続しており、2013年10月31日には東京都墨田区立小梅小学校、2013年11月8日には千葉県白井市立七次台小学校で実施しました。

さらに、当社では2012年からエコツツェリア協会「エコキッズ探検隊」に協賛しており、2013年夏も、子どもたち30名と一緒に、環境に配慮した住まい方についての実験や未来のエコハウス工作などに取り組みました。



かんきょう一日学校の様子



出前授業の様子

## 「エネマネハウス2014」にて 「30年後の家」に技術協力

2014年1月29日～31日、東京ビッグサイトにて、「30年後の家」のアイデアを提案する経済産業省の実証事業「エネマネハウス2014」が開催されました。「エネルギー」「ライフ」「アジア」という3つのコンセプトのもと、大学に企業が協力し先進の技術と新しい住まい方を提案するプロジェクトです。

当社は、早稲田大学の「Nobi-Nobiハウス」に、主に当社のヘーベルハウスで用いている構造躯体システムとALC技術の提供、全体施工管理という形で技術協力を行いました。



早稲田大学「Nobi-Nobiハウス」完成写真

## 当社提供「ふるさと再生 日本の昔ばなし」が「児童福祉文化賞」を受賞

当社では、2012年4月から放送を開始したテレビ東京系アニメ番組「ふるさと再生 日本の昔ばなし」を1社提供しています。未来を担う子供たちに日本各地の民話や伝説などを楽しく伝えていくこの番組の趣旨が、世代を超えて住み継がれる住まいを目指す当社の取り組みと共通することが、当社が提供している理由です。2014年、この番組は「児童福祉文化賞」を受賞しました。これは、出版物、映像・メディアなどの部門から優れた児童文化財を選び、厚生労働大臣が毎年表彰する権威ある賞で、2014年で56回目を迎えます。



## 工場における社会との価値共創(旭化成住工)

### ヨシでびわ湖を守る

琵琶湖岸に生息するヨシ(葦)には水を浄化する力があり、また、湖魚の産卵場所になるなど、琵琶湖の生態系保全に大きく寄与していますが、冬の時期に枯れたヨシを刈り取らないと翌年に元気なヨシが育たないため、毎年、行政や企業、市民団体などがボランティアでヨシ刈りを行っています。

滋賀工場は2009年より、京セラ滋賀蒲生工場やコクヨ工業滋賀、たねやなどの地元企業がつくる地域活動「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」に参画し、2013年12月7日の東近江市 伊庭内湖、及び2014年2月22日の近江八幡市 西の湖で行われたヨシ刈りボランティアに、従業員がネットワークのメンバーとしてそれぞれ参加しました。刈り取ったヨシは紙の原料としてコピー用紙や名刺などに加工され、滋賀工場でも使用しています。



伊庭内湖(いばないこ・東近江市)  
ヨシ刈りボランティア活動風景



西の湖(近江八幡市)  
ヨシ刈りボランティア活動風景

### 工場敷地周辺のゴミゼロ活動

滋賀工場では毎年5月と10月に「ゴミゼロの日」を設定し、お昼休みと午後の就業時間の一部を利用して、滋賀工場及び厚木製造部の全従業員による



滋賀工場敷地周辺清掃活動風景(2013年5月31日)

周辺道路の清掃活動(ごみ拾い)を実施しています。

2013年度も5月31日と10月10日に清掃を実施しました。

### 「滋賀グリーン購入ネットワーク」への参画

滋賀工場では2001年から環境に優しい商品を購入するグリーン購入活動に取り組み、2003年から地域ネットワーク活動「一般社団法人 滋賀グリーン購入ネットワーク(略称:滋賀GPN)」に参画、2013年度からは理事及び幹事として活動しています。滋賀GPNは2013年10月24日に資源循環への取り組みをテーマに「グリーン購入フォーラム2013」を長浜バイオ大学で開催し、県内外の企業から約150名の参加がありました。滋賀工場も「企業連携で進めるコスト削減と資源循環」と題して活動事例の

発表を行いました。



グリーン購入フォーラム(2013年10月24日)

### 滋賀工場のさまざまな活動

●2007年6月からは、滋賀GPNの評価手法研究会が、「毎日使うコピー用紙を、使い捨てのダンボール箱ではなく繰り返し使える“通い箱”を使い、共同作業所の障がいを持った方が参加事業社へ届ける」「エコラボはーと・しが」



「エコラボはーと・しが」納品の様子

というシステム(現在は滋賀県社会就労事業振興センターが運営を担当)に賛同しています。毎月A4サイズのコピー用紙を20冊(配達により)購入し、障がい者の収入につなげることで環境と福祉に貢献しています。

●2007年からは、CSRを推進する地域ネットワーク「淡海フィランソピーネット」に参画し、同ネットが企画する「ペットボトルキャップリサイクル活動」に参加しています。

●2011年4月には、そのキャップから作られたプランターに共同作業所の障がいを持った皆さんが季節の草花を植えて、企業などに提供する「HANA-WAプロジェクト」が始動しました。滋賀工場はその活動に賛同し、滋賀工場の従業員食堂の前にプランターを設置して、毎月、障がい者の皆さんにメンテナンスをしていただくことで環境と福祉に貢献しています。



「HANA-WA」草花メンテナンスの様子

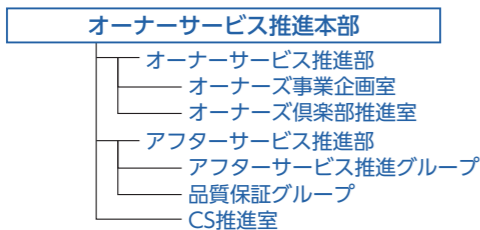


# お客様のために

お客様との交流の場であったヘーベリアン倶楽部を2013年10月に大きく刷新しました。名称も旭化成オーナーズ倶楽部として社内の組織体制も変更しました。

## お客様満足を実現するための体制

当社は、従来からお客様満足の向上に重点をおいた活動を行ってきました。当社のお客様へのサービスは、顧客(オーナー)に対して、生活に伴うあらゆるサービスの提供(設備機器の交換工事、通信販売等)やイベント開催などの付加価値を提供するサービスと、建物のメンテナンスや修理などを担当するアフターサービスとの2つがあり、これまでこの2つのサービスは別の部門がそれぞれ担当してきました。これらをトータルに管理し、より充実したサービスをお客様へ提供することを目的に、2014年4月に「オーナーサービス推進本部」を新設しました。



### ■ 生まれ変わった旭化成オーナーズ倶楽部

当社では、ヘーベルハウスに居住されている方々を愛情をこめて「ヘーベリアン」と呼びしています。ヘーベリアンの皆様方にイベントや情報提供を通じて豊かな暮らしをご提供する会員制【ヘーベリアン倶楽部】は、サービス提供から10年に亘って皆様には有益なサービスを提供してきました。2013年10月、これまでには年会費をお支払いいただいている方だけが加入することができた【ヘーベリアン倶楽部】を、ヘーベリアン全員を対象とした年会費無料の【旭化成オーナーズ倶楽部】と変更し、お客様との接点をより強化するサービスに進化させました。

お客様それぞれのコンシェルジュを目指して、設備機器の交換や通信販売事業、家事代行や庭木の手入れなどの生活サポートサービス事業など、新たに積極的な取り組みを今後展開していきます。

## オーナーズ倶楽部の活動

### ■ イベント・セミナー

2013年度は全国で約600のイベント・セミナーが開催され、参加者は1万人以上にもなりました。今後も交流の場を兼ねた役立つイベント・セミナーを目指していきます。



**住まいの学習塾**  
住まいのお手入れ方法を実演を交えてご説明しています。ワックス掛け、床のキズの直し方、水まわりのお手入れ、クロス補修方法などためになる説明が盛り沢山です。



**お役立ちフェア**  
設備機器の交換やリフォームをお考えの方に、直接ご相談いただけるイベントです。お役立ちカタログ掲載の商品の一部も実際にご覧いただけます。などためになる説明が盛り沢山です。



**イベント**  
エリアでいろいろなイベントが企画されています。歴史探訪、街歩き、工場見学、樹木ウォッチングなどヘーベリアン同士の交流を深める企画が満載です。



**セミナー**  
ライフプランニングをサポートする各種のセミナーを開催しています。相続に備える生命保険活用、土地の賢い活用、賃貸住宅経営、固定資産税対策などのセミナーを開催しています。

### ■ 会報誌「HEBELIAN」の発行

全てのヘーベリアンに春夏秋冬の年4回発行しています。現在発行部数は24万部、季節にあった住まいに関するいろいろな情報をお届けしています。



通信販売商品、設備機器の交換工事、暮らしの便利屋さんを掲載したお役立ちカタログも同封しています

### ■ インターネットサービス「ヘーベリアンネット」

現在8万棟のヘーベリアンの方が登録されています。コンテンツは住まいの手引き、暮らしのサポート、暮らしの便利屋さん、イベント・セミナー、ヘーベリアン広場、ショッピングと沢山の情報を提供しています。



HEBELIAN NET.

## お客様の声

東京都豊島区在住

加藤 信夫様・恭江様



旭化成ホームズさんは、家を建てた後もたびたび住まいに関わる相談に乗ってください、とても頼りになる存在です。お付き合いは約30年にもなります。ヘーベルハウスに住む方の情報交換の場である「ヘーベリアン倶楽部」のイベントにもよく参加していました。住まいのお手入れなどの実用的なセミナーや、樹木ウォッチングやジャズコンサート&ディナーなど楽しいイベントが定期的開催され、それらを通じた参加者の皆さんとの交流は楽しいひと時です。東京のガーデニング愛好会は、数年前に私達の住まいの屋上菜園をヘーベルハウスに住む方にご紹介したことをきっかけとして作られました。今、生活や人生を楽しめているのは、旭化成ホームズさんがずっと私達に寄り添ってくれているおかげだと感謝しています。

## アフターサービスの取り組み

### ■ 60年先まで心地よさをつなぐ「ロングライフプログラム」

60年先までのメンテナンス時期、費用が分かる「メンテナンスプログラム」を点検時にお渡ししています。長期的なメンテナンス計画にお役立ていただいています。

### ■ 設計図からメンテナンス履歴まで一元管理する「邸別ハウスカルテ」

すべてのヘーベルハウスの設計図、メンテナンス履歴を保存しており、お客様からのお問合せにもすぐに対応が可能です。

### ■ 24時間細やかなアフターサービス体制

アフターサービスの電話窓口であるヘーベリアンセンターでは、24時間365日体制で受付をしています。お客様からいただいたご依頼に応じてヘーベリアンセンターから直接手配して対応が完了する「ワンストップ率」は90%を超えています。

### ■ 定期点検で快適さを保つ「60年点検システム」

点検技能を評価する社内検定試験に合格した約200名(内一級建築士は約50名)の熟練した技術と豊富な経験をもった人材によってヘーベルハウスの定期点検は行われています。

## アフターサービスNo.1に

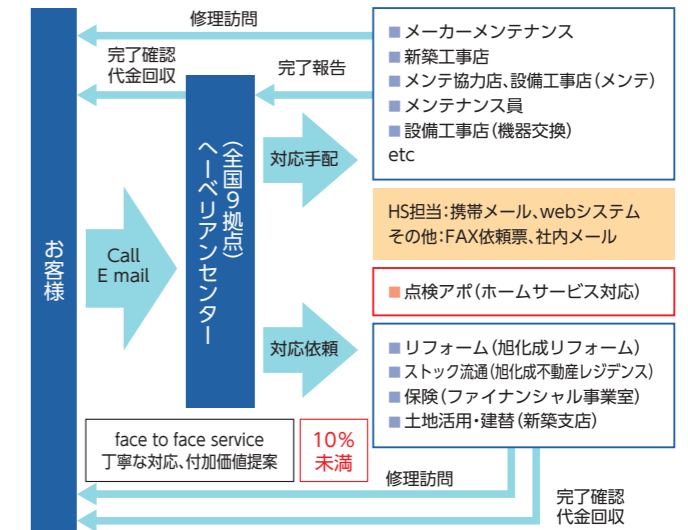
日経新聞社が主催している「日経ビジネス新築戸建住宅部門アフターランキング」で、2012年、2013年と満足度指数で2年連続一位を獲得しました。

企業名	2012年	2013年
旭化成ホームズ	68.0	62.5
A社	43.4	57.8
B社	53.0	54.6
C社	50.8	53.6
D社	41.8	50.0
E社	47.2	44.8
F社	42.0	32.3
G社	31.6	29.8

## ヘーベリアンセンターの開設

以前は、お客様窓口は全国50のホームサービス課でしたが、2007年よりコールセンター【ヘーベリアンセンター】を全国9拠点に開設してきました。ヘーベリアンセンターのメンバーが心がけているのはお客様のお話をよく聞くこと。なにをお望みなのかを察して必要な対応を迅速にとるように努めています。「ヘーベリアンセンターがあるから安心」と思ってもらえることが願いです。

### ヘーベリアンセンター業務フロー



【2012/7日経ビジネス掲載記事より】  
「問い合わせ先の分かりやすさ」「対応等に要した時間」「かかった料金や費用」の項目が前年度より10ポイント以上スコアを上げた。  
【2013/8日経ビジネス掲載記事より】  
目指すのは単なるアフターサービスの枠にとどまらない「ご用聞き」だ。住宅に関する悩みをすべて、旭化成ホームズへ相談してもらうことを狙う。顧客との接点を増やせた結果、日常生活の困りごとなどを解決し満足度を高めている。

## Voice

さらなるお客様満足の  
ために新たな組織を  
新設

オーナーサービス推進本部長  
**青方 均**



私たちはこれからも、お客様が生涯安心して暮らせる「住まい」と「サービス」を提供することを目指していきたいと考えています。そのために今回組織の再構築を行い、オーナーサービス推進本部を新設しました。今後も、より一層のCS向上を目指していきます。

# 品質管理の取り組み

旭化成ホームズグループでは、お客様に安心して快適にお住まいいただくために、主要部材の工場と施工現場の両方で、品質管理を徹底しています。

## 工場における品質管理の取り組み

### 旭化成住工の取り組み

旭化成住工はヘーベルハウスの構造体である鋼管や屋根パネル、防水・下地、断熱材パネル、配管などの部材の加工を行っています。ロングライフ住宅を支え、お客様に信頼いただける製品をご提供するのために、さまざまな品質管理の取り組みを実施しています。



信頼性試験の一例「制震フレームの構造試験」

### ■ ISO品質マネジメントシステムによる品質管理活動

旭化成住工では、品質マネジメントシステムによって品質管理を実施しています。品質に関する要求事項の遵守・信頼性試験・検査の実施・設備の保全活動、自主標準作業診断の定期実施など、さまざまな活動によって品質管理に努めています。

### ■ 量産立ち上げ時の取り組み

新製品、設計変更、5M<sup>\*1</sup>変更などで量産体制やラインの変更がある場合、品質に影響を及ぼす可能性が高くなります。そのため、特に量産立ち上げ時においては、生産準備段階から量産試作品の評価と量産開始の承認のプロセスを明確にしています。さらに、量産開始後の監視測定と有効性評価までを含め一連の品質保証活動を組織的かつ計画的に実施しています。

### ■ 教育訓練

全従業員及び品質に影響する業務に従事する従業員への技能や知識を明確にし、計画的に教育を実施しています。また、品質に重要な影響を及ぼす工程については、作業認定制度を設け従事する社員の能力を担保すると共に、技能者の育成や能力向上を行っています。

### Voice

旭化成住工  
品質管理推進責任者

中村 彰



私たち、旭化成住工社員一丸となって、「お客様の幸せな住まいの実現」を目指し、ISOマネジメントシステムをベースに、「だから大丈夫といえる物づくり」に日々取り組んでいます。

### 旭化成建材の取り組み

旭化成建材は現在、茨城県の境工場とネオマフォーム工場、岐阜県の穂積工場、山口県の岩国工場の4工場体制でホームズ向けの外壁材・屋根・床版（ヘーベル）及び断熱材（ネオマフォーム）の生産を行っています。旭化成建材は旭化成ホームズの信頼と満足を高めるために、品質方針を以下のように定めています。

### ■ 生産部門の役割

工場では、毎月実施される合同品質会議によって、品質管理の結果の報告と確認を行っています。また、クレームの是正対応の進捗確認、品質の改善状況の進捗も確認し、必要に応じて対応を検討しています。生産現場では継続的な現場力向上を図るため個別トラブル改善活動、自主保全活動、QC活動を実施しています。また、それらの小集団活動の成果の共有のため小集団発表会も毎年開催しています。

品質管理においては、旭化成ホームズの生産技術部・購買部からも参画する定期的な工場監査を実施し、PDCAを確実に実施しています。

生産の波動性に柔軟に対応するため、ラインのきめ細やかな品種別の生産計画を行いながら在庫管理を適切に行っています。

### ■ スタッフ部門の役割

主に外壁デザインの新仕様の対応時においては、設計開発と部材制定を旭化成ホームズ担当と協議しながら進めています。また、ヘーベル、ネオマフォームの基本品質向上においても、重要課題については目標を設定して、活動しています。

### ■ 工場の品質管理の事例紹介

ネオマフォーム工場では、最も重要なλ（熱伝導率）の性能確保のため原料と中間製品の水分管理をサンプル検査にて実施しています。



ALC工場のデザイン加工ラインの最終検査では製品の長さ、巾やデザインの組み合わせで30,000種を超える品種の加工をコンピュータ制御の自動化されたラインで生産を行っています。最終検査ではタブレット端末を利用して図面照合を行い、検査の信頼性の向上に努めています。

タブレット端末による最終検査

### Voice

旭化成建材  
境工場 製造課

八木田 典広



旭化成ホームズの生産技術部、購買部と一体になって品質改善に取り組んでおります。定期的に品質定例会を開催し白熱した議論になりますが、品質を高めたい気持ちは同じです。外壁の外観向上と一緒に取り組む機会があり、生産現場と一体になって設備改善活動を実施しました。後日、ホームズ施工の方から好評を頂き、改善努力がお客様に届いたことを実感しました。今後もお客様に喜ばれるものづくりを続けます。

\*1 5M:品質管理を考える上で必須の5大要素 ①人(Man)②材料(Material)③作業方法(Methods)④機械設備(Machines)⑤測定方法(Measurement)。

## 施工現場における品質管理の取り組み

旭化成ホームズでは、施工現場においても、お客様の快適な暮らしを実現するために、厳しい品質管理を行っています。住まいの高い品質を維持するためには、現場のチームや作業ごとに施工の質の差が出ないようにすることが大切です。そのために当社では、品確法(住宅の品質確保の促進等に関する法律)の遵守や工場での品質管理に加え、独自に開発したLLQCS(ロングライフオリティコントロールシステム)により、施工現場における品質管理を行っています。LLQCSにはさまざまな取り組みがありますが、中でも大きな特徴と言えるのが「技能者認定制度」を設けていることです。この制度では、規定されたマニュアルに習熟し、認定

を受けた作業員でなければ現場で作業することができないルールとしており、主に基礎・躯体工事、防水工事などの工程に取り入れられています。さらにこの認定は本社部門により定期的に更新されるので、認定作業員のレベルを維持・向上することができます。一般的に建築施工現場における品質チェックは完成品の精度確認が主体ですが、この制度では、完成品の精度と合わせて作業自体の品質についても担保できます。また、作業毎の品質チェックの他に、大きな検査が完成までに4回行われますが、その際の検査担当者に対しても認定制度を取り入れているため、検査についても高い技能レベルが確保されています。



施工現場での品質チェック風景



### Voice

関西営業本部 阪奈支店 工事課

宮本 一政



施工現場の品質を担保する上で、認定制度に加えて重要なのが、工事店との良好なコミュニケーションの確保です。工事課主体で月1回「安全衛生協力会」を開催し、ほぼ全職種代表者と定期的に情報交換を行っています。また現場意識の向上を目指し、年2回、関西エリアでは全支店による活動成果発表会を開催。作業品質向上や効率化をはじめ、さまざまな提案が行われます。さらに当社主催の工事店発表会もあり、工事店相互に刺激し合いながら住まいの品質向上に取り組んでいただける環境づくりも行っています。

# 労働安全衛生の取り組み

旭化成ホームズグループでは『業界最高水準の「安全な現場と人」をつくりあげ、ゼロ災を達成する』ことを目標とし、特に重大災害につながる墜転落災害の撲滅に取り組んでいます。

## 現場における安全確保の取り組み

### 危険作業の特定と安全対策

現場における安全確保のために、危険な作業の特定とそれに対応する取り組みの実施を行っています。例えば、危険な作業の一つである足場の組立て・解体作業においては、手順を明確にし、作業者の安全が常に確保できるよう周知徹底を図っています。また、屋内の鉄骨階段にすべり止め対策を施した上で出荷するなどの物理的な安全対策も実施しています。



鉄骨階段のすべり止め対策

### 「人」に重点を置いた安全活動

従来のパトロールなどの安全衛生活動に加え、人に重点を置いた活動（現場での声掛け、職長教育、新規入場者教育）を実施しています。さらに2013年度からは「現場での声掛け」から一歩踏み込んだ「安全対話」を導入しました。具体的には、現場責任者と職長が連携し、現場で職方さんとの対話を通じ、安全に関する知識と同時に安全意識を高めあいゼロ災達成を目指します。

これらの現場の生の声に基づき、ヒヤリハット事例を危険予知活動に活かす活動を行っています。

2013年には管理者向け、2014年には職長向けの「安全対話マニュアルDVD」を発行し、『安全対話』を円滑に行うことで、現場に関わる全員の安全意識向上に努めています。



現場での安全対話の様子

## 従業員の健康

当社では、旭化成グループ全体の健康管理ガイドラインに基づき、生活習慣病対策、メンタルヘルス対策等、社員の心身の健康保持増進活動を推進しています。

### 健康診断有所見者割合の低減

有所見者の低減のため、各地区において健康管理スタッフ、外部講師等による運動指導や健康指導を進めています。また、旭化成健康保険組合の事業である「高齢者の医療の確保に関する法律」に基づく特定保健指導のプログラムも活用しています。

### メンタルヘルスケアの推進

旭化成グループの「メンタルヘルスケア・ガイドライン（2005年6月発行）」に基づき、メンタルヘルスの「4つのケア」（下表）を充実させることにより、職場環境の改善に取り組んでいます。「セルフケア」および「産業保健スタッフなどによるケア」については、これまでの調査用紙によるストレス調査から、社内のイントラネット環境で利用する「e診断@心の健康：職業性ストレス簡易診断システム（株式会社富士通ソフトウェアテクノロジー）」を2012年から導入し、定期健診時等にストレス調査を実施することで、早期発見・早期対応を推進しています。このシステムでは個人のストレス調査と同時に、職場のストレス分析「健康いきいき判定」も行い、「ラインによるケア」の一環として、職場環境の改善につなげています。

#### メンタルヘルスの「4つのケア」

セルフケア	社員自らがストレスを予防し軽減する
ラインによるケア	部下と日常的に接する管理監督者が行うケア 社員からの相談対応や職場環境の改善など
産業保健スタッフなどによるケア	専門的立場から、社員および管理監督者からの相談対応や心の健康づくり活動を支援
専門機関によるケア	メンタルヘルス専門機関および専門家によるケア

# お取引先とのかかわり

旭化成ホームズグループでは、取引先の皆様とのネットワークやコミュニケーション活動を充実させることにより、信頼ある関係を構築していきます。

## 緑の会

社会に良質なヘーベルハウスを長期的かつ安定的に供給するために、当社とその協力業者で「緑の会」を組織し、次の目的のもと、様々な活動を行っています。

### ＜緑の会の目的＞

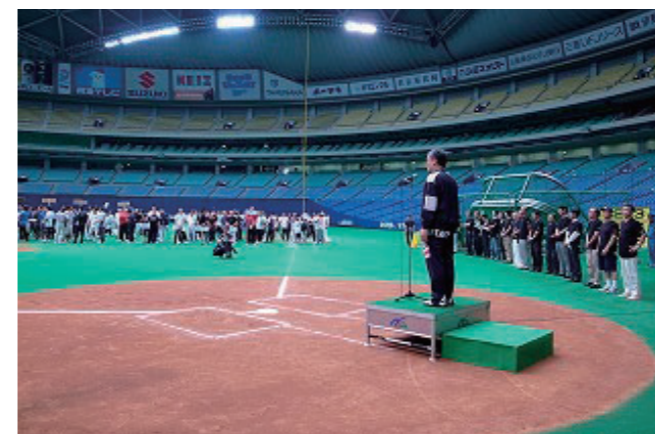
1. 会員が家づくりに意欲を持って励めると共に施工方法の研究改良について相互に啓発し合える環境をはぐくむこと
2. 会員に福利厚生機会と会員相互の親睦の場を提供すること

例えば、協力業者・職方さんに対して安全教育を行い、安全と品質を確保するための「知識」、「技能」、「態度」をさらに習得する活動を実施しています。

また、研修旅行やソフトボール大会を実施するなど、会員のご家族を含め、相互の親睦を深めていただいています。



職方さんへの現場講習



ドーム球場でのソフトボール大会

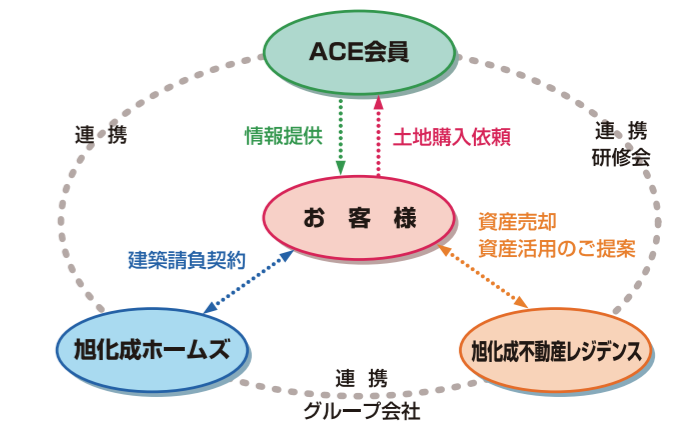
## 旭化成不動産情報ネットワーク「ACE」

当社は、顧客サービスの向上と仲介事業を推進するため、1996年4月26日（旧）旭化成不動産販売株式会社（現 旭化成不動産レジデンス）社内に土地、建物、マンション等の売買情報に関する旭化成不動産情報ネットワーク「ACE（エース）」を発足させました。その背景には、「土地を探してヘーベルハウスを建てたい」というお客様のご希望が増えてきたことがあります。

ACEは、旭化成不動産レジデンスを軸に、顧客サービスの一層の向上と仲介事業の推進を図るためのネットワークです。信頼と実績のある地元不動産企業との連携により、地域密着の「豊富な不動産情報の提供とスピーディーな対応」が可能となりました。

発足以来、多くのお客様に「ヘーベルハウス」を土地からお世話させていただき、2013年度は1,051棟の実績を上げています。これからも不動産企業との連携を強化し、共に活動を推進していきます。

### ACE連携ネットワーク概念図



ACE総会の様子

# 従業員とともに 従業員とともに

旭化成ホームズグループは、すべての社員がいきいき働き、能力を発揮するためのさまざまな制度や、能力開発に向けた取り組みの整備を行っています。

## 人権・多様性の尊重

当社グループでは、人権を尊重すると共に、障がい者雇用の促進や定年退職者の再雇用にも取り組んでいます。

### ■ 女性の活躍支援

住まいに関わる事業として、女性が能力を発揮して活躍できる場が多くあります。ライフステージにおいて必要な制度の整備や、社員同士が情報交換できる機会を設け、女性が高い意欲を持って長く活躍できるよう、積極的に支援しています。



女性営業交流会

### ■ ハラスメント防止への取り組み

旭化成グループで定めた「企業倫理に関する方針・行動基準」や就業規則でセクシュアルハラスメントを明確に禁止しています。また、人事部内にセクハラ相談窓口やES相談窓口を設置し、相談への適切な対応を行っています。

定期的に行っている管理者向け勉強会や階層別研修においては、各種ハラスメント防止のための啓発にも努めています。

### ■ 定年退職者の再雇用

定年(60歳)を迎えた社員のうち、希望する社員について引き続き契約社員として雇用し、これまで培った高度な専門知識や能力を発揮する担当者としていきいきと働く場を提供しています。

### ■ 障がい者雇用の促進

旭化成グループが設立した特例子会社「旭化成アビリティ」のグループ適用となり、印刷・製本、筆耕など、さまざまな業務を発注することで、障がい者雇用の促進を行っています。

## ワーク・ライフ・バランスの促進

当社グループは、社員がいきいきと働き続けていくために、ワーク・ライフ・バランス推進の取り組みを実施しています。各種休暇制度等の整備、長時間労働の抑制や年次有給休暇取得の促進等により、社員のメリハリのある働き方と、より生産性や品質の高い業務につなげていくことを目指しています。

### ■ 仕事と家庭の両立支援

仕事と家庭の両立を図る社員のために、さまざまな制度・施策を準備し、サポートしています。また、これらの制度の周知を行うと共に、利用できる風土づくりにも努めています。

### ■ 育児休業制度

当社の育児休業制度は、法律が定めた期間よりも長く、社員がそれぞれの状況に合わせて、安心して子育てができるようになっています。2013年度の育児休業制度の利用者は171名で、19名が男性、152名が女性でした。

## 育児休業取得者のコメント



集合住宅営業本部  
末宗 宏一郎

第2・3子(双子)が生まれてから帰宅時間を早くして、10ヶ月程育児に集中、育児休業も1週間取得しましたが職場の皆さんが好意的に受け止めてくれました。お客様やその他ルート先等とのつきあいにおいて、子育てをした経験は共有できることが多く、仕事上プラスになったと感じています。

マーケティング本部  
稲田 恭子

今は育児短時間勤務で働いているので、短時間で集中して仕事をするようになりました。「今日できる仕事は明日へ回さず処理する」「がんばりすぎず、仕事も家事も子育ても肩の力を抜いてやる」ことを心がけています。このようにして長く勤められているのは、職場の人たちの理解があるからこそだと思います。



### ■ 育児のための短時間勤務制度

当社では、子どもの小学校就学時まで短縮勤務が可能な育児短時間勤務制度(1日最高2時間)に加えて、キッズサポート短時間勤務制度を2007年9月に導入し、子どもが小学校3年生までの短時間勤務を可能にしました。

### ■ 介護支援のための制度

当社の2013年度の介護休業制度の利用者は4名でした。当社では、家族を介護することを理由とする場合、通算で1年間休業を取得することができます。また、介護支援のための各種制度を整備し、仕事と介護の両立を図る社員が柔軟に働くことができる環境づくりを行っています。併せて、社内Webでの制度周知や仕事と介護の両立に必要な情報をまとめたハンドブックの配布も行っていきます。

### ■ 長時間労働の抑制

社員が健康でより良い仕事をし続けるために、長時間労働の抑制に努めています。各職場での取り組みは社内報などで広く紹介され、社員一人ひとりが意識して取り組んでいます。また、限られた時間の中で工夫し、お互いに助け合って成果を出していくことで、個人と組織の成長にもつながっています。

### ■ 次世代認定マーク「くるみん」を取得

当社では、2007年、2010年に引き続き、2013年に厚生労働省より次世代育成支援に積極的な企業として、次世代認定マーク「くるみん」を取得しました。



## 社員の能力開発に向けた取り組み

当社グループは、「全員経営」を目指しており、社員一人ひとりが「自ら学び・考え・行動する」ことが必要と考えています。それらを実現するために、OJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング)に加えた各種研修を通じて、社員の「成長したい」という意思を支援する体制を整えています。

### ■ 教育研修体系

当社グループでは、全社員を対象に、能力開発を計画的に実施していくための研修体系を策定しています。教育体系はマネジメント層を育成する「経営リーダー育成」と基礎能力、専門能力を向上させる「人財育成の2つの基礎育成」の2方向からなり、それぞれが階層ごとに教育を受ける仕組みになっています。それらの他に社員が自発的に実施する自己研鑽支援制度があります。

## 旭化成ホームズ人財育成体系

	旭化成ホームズ必修研修		旭化成ホームズ任意研修		その他
	経営リーダー育成	人財育成の2つの基礎習得	経営リーダー育成	人財育成の2つの基礎習得	
新人	狙い・事業経営力向上 人財マネジメント力向上	狙い・職能専門力向上 仕事の基礎力向上	●新入社員研修 ●新人フォロー研修	●新入社員研修 ●新人フォロー研修	●自己研鑽支援制度
中堅・若手層			●e-ラーニング ●問題解決研修 ●各種公開講座 ●E転研修	●e-ラーニング ●問題解決研修 ●各種公開講座 ●E転研修	
インストラクター	●新任インストラクター研修 ●コーチング研修			●各種公開講座 ●AP転研修	
課長	●新任課長研修 ●課長OJT研修 ●財務・会計実践研修				
支店長	●新任支店長研修 ●ミドル経営塾 ●部長選抜研修				
本部長	●関係会社新任取締役研修 ●事業部長アドバンスフォーラム				
役員	●新任取締役セミナー ●役員フォーラム				

### ■ 新入社員研修

「学生から社会人への意識改革」「チームワークの体得」「会社、仕事、自分を知る」の3つを目的に、入社1年目の4月に行われます。総合職は、まず、旭化成グループ合同での新入社員研修に参加した後、当社での新入社員研修を実施。技術職が配属先赴任後、営業職のみ残り、5月GW明けまで、研修を実施しています。



新入社員研修

■ ALIS(アリス)教育

営業・設計の課長～1年次までを対象として行われている教育です。建築に関わる質の高い専門性の維持と更なる向上を目的として展開しています。より良い住空間の実現を目指して1986年に第一次テキストの発行と教育を全国規模で実施、その後1995年に第二次テキストの発行を実施、各種の研修やツールに反映されてきました。今回はそのような歴史を踏まえて、2013年10月第三次テキスト発行が始まり、基本知識の全国検定から「くらし提案編」の学習へと進んでいます。継続学習をすることにより、より良い「提案」を行えるよう、各地で学習が行われています。



■ 各種公開講座 及び 部場支援

職能専門力・仕事基礎力の向上を目的に、様々なラインナップの講座を開講しています。職能専門力については、コミュニケーション、プラン、インテリア、家具、照明、など、知識・スキルを中心にしたテーマで開講し、自身の業務における専門知識を習得するように、計画されています。

仕事基礎力については、「CTG研修」「DISC研修」「オフサイトミーティング研修」「仕事力研究会」など、自己啓発やチームワークをテーマに実施。自分が伸ばしていきたい内容について学んでいくことができます。

■ e-ラーニング

社内イントラネットにおいて、問題回答型の自己学習システムを提供しています。このシステムでは、基礎知識の自己チェック、研修で学習する知識の予習・復習などを行う事ができます。

■ 自己研鑽支援制度

自己研鑽支援制度は、旭化成グループ共通の制度です。旭化成グループでは、求める人材像として「稼げるプロ」を提示しており、職務遂行能力や、専門知識・技術を高めるための個人の努力を応援しています。自己研鑽に自主的に取り組む人を応援することで、自律的に学習し続けることをグループの風土として広めるとともに、グループの発展を支える人材を育成することを目的としています。この制度では、具体的には、国家・公的資格の受験料や、外部教育研修・通信教育の受講料などの支援を行っており、受講

可能な講座は多岐にわたっています。

■ 体験学習合宿

経営幹部と若手(2年次)の合宿が開催されました。

体験学習とは、今、ここで起こった共通の体験の中の事柄を学習素材として、共に学んでいくことです。

この合宿では、1)世代間を越えたコミュニケーションのあり方を体験を通して学ぶ、2)日常の体験から学ぶ習慣を身に付ける、というねらいで行われており、経営幹部と若手社員が入り混じりながら数々の実習に取り組み、自由闊達で和気あいあいとした雰囲気の中、今後の人生や仕事において大切なことを体得する貴重な時間となっています。2013年度は10回の体験学習が行われ、計271名の社員が参加して、それぞれの人が輝きを見せる素晴らしい場となりました。



体験学習合宿の様子

Voice

社員の皆さんの  
貴重な学習の場を  
お手伝いしたい

人事部 人財開発室

三原 祐一



2011年から事務局の一員として体験学習合宿の企画・運営を行っています。2013年度までの活動は当社グループ内で行っていましたが、2014年度より旭化成グループ全体での活動となりました。参加した社員からも大変有意義な時間を持てた、と感想をいただいています。この合宿を通じて、社員の皆さんがますます活躍し、成長していくためのお手伝いを今後もさせていただきたいと思っています。

旭化成ホームズ株式会社  
代表取締役社長 池田 英輔 様

平成26年7月14日



「環境・社会報告書2014」に対する第三者意見報告書

1. レビューの概要と観点

貴社の「環境・社会報告書2014」に記載された環境活動、社会活動について、策定された目標と実績の自己評価並びに特集として特記された内容を中心に、以下のレビューの観点に基づき、目標の達成度を客観的に検討してコメントを作成した。なお、意見報告書の取りまとめに際し、工業化住宅の技術開発・発展について学識者として長年指導されてきた安岡正人氏(東京大学名誉教授)に建築・環境技術面からのアドバイスを依頼した。

- レビューの観点
- ①住宅の長寿命化(高強度・高耐久性、暮らしの変化への対応、良好なストック)
  - ②建築のライフサイクルにおける環境負荷の低減(省エネ、創エネ、省資源、リデュース、リユース、リサイクル)
  - ③住まい手や社会とのコミュニケーション(自然共生、環境教育、価値共創、社会貢献)

2. 意見(レビュー結果)

■旭化成ホームズの環境・社会への取り組み

我が国は持続可能な社会を実現するために多岐にわたる取り組みを進めている。エネルギー消費やCO<sub>2</sub>排出の増加が顕著である住宅・建築分野では、低炭素社会へ向けた方策において省エネルギー対策の強化が求められており、また、中古住宅・リフォーム市場の活性化に向けて長期優良住宅・リフォーム推進事業等の支援策が始まっている。貴社は創業時の丈夫で長持ちする住まいをつくるという考えから将来を見通して「ロングライフ住宅の実現」を宣言し、長きにわたり環境への貢献を推し進めてきた。環境報告書の作成が10年目となった今回、表題に「社会」を加え、企業倫理の遵守や社会貢献を含むコンプライアンスについても踏み込んで報告書をまとめたことを評価し、貴社のさらなる環境・社会活動の推進を期待する。

■環境・社会活動 目標と実績

- ①低炭素社会へ向けた活動:高効率・省エネ設備機器の普及促進及び次世代省エネ基準の住宅供給率の向上が目標を上回ったことを評価し、「ストックヘーベルハウス」の仲介実績が年々向上していることを高く評価する。一方、新築住宅におけるLCA・CO<sub>2</sub>削減貢献度、自然の恵み利用設備の普及促進によるCO<sub>2</sub>排出量削減は、わずかに目標に届かなかったが、太陽光発電の導入をサポートする独自の方策「安心ECOサポート」の採用促進や事業活動によるCO<sub>2</sub>排出削減の促進を図ることで目標達成が期待できる。また、旭化成住工(株)の滋賀工場及び厚木製造部における太陽光発電パネルの設置や旭化成建材(株)各工場での工場機械の高効率機種への更新など、省エネルギーへの取り組みが強化されていることを評価し、今後も積極的な取り組みを期待する。
- ②循環型社会へ向けた活動:2013年度の工場及び新築施工現場における産業廃棄物発生量は、原単位において約6%の改善が見られた。新築現場では前年度から140kg/棟の廃棄物削減を実現しており、「アースワンププロジェクト」の成果として評価できる。また、工場生産で発生する産業廃棄物の削減では、旭化成住工(株)が目標を上回り、総量でも前年度比約11%削減したこと、旭化成建材(株)が最終埋処分量ゼロを2006年度から継続して達成していることを高く評価する。
- ③自然共生社会へ向けた活動:「あさひ・いのちの森」では誕生から7年間、様々な活動を行ってきたが、2013年度は林内の植生維持等のため里山林再生区において間伐に着手している。今後は生物多様性等の調査や原風景の再現だけでなく、より専門的な自然・環境学習の場としても活用されることが期待される。工場における大気汚染・水質汚濁の防止については、いずれも定期測定を実施し、法規制値を着実に下回っていることが確認された。また、木材グリーン調達において認証材の使用率は既に67.6%を達成しており、2014年度内に中期目標の70%を達成することが大きく期待できる。
- ④社会との価値共創へ向けた活動:「EcoゾウさんClub」は新規会員数が目標を上回り、エネルギー消費を見直せるオリジナルコンテンツや会員相互の情報交換の場を提供することで、家庭における省エネルギー推進の役割を担っていることが伺える。環境意識啓発活動の実施では、ロングライフ住宅につながる住まい手とのコミュニケーションの場となる数多くのイベントやセミナーを開催し、また、地域貢献では旭化成住工(株)においてグリーン購入や琵琶湖でのヨシ刈りなどの地域ネットワークを交えた環境・社会活動に積極的に参加しており、今後も継続した取り組みに期待する。10年にわたり住まいの情報提供を行ってきた有料会員制の「ヘーベリアン倶楽部」は、ヘーベルハウス居住者すべてを対象とした無料登録制の「旭化成オーナーズ倶楽部」に改新され、より多くの住まい手に充実したサービスを提供する積極的な取り組みが大いに評価できる。

■特集

特集1の中堅従業員による座談会では、「ロングライフ住宅」を基盤とした「一人でも多くのお客様に、一日でも早く、快適な生活をお届けする」という貴社のビジョンを各部署の社員が共有し、住まいづくりから維持・点検までそれぞれの業務に熱意をもって活かされていることがわかった。特集2では、これまでの自然の風や光を意識した都市の住まいづくりに「あさひ・いのちの森」における森づくりの活動を通して得られた知見を活用する取り組みが加わり、より豊かな都市の住まいづくりに活かされていくことが大いに期待できる内容であった。

3. 今回の環境・社会報告書の総合評価と今後への期待

今回の環境・社会報告書2014では、各目標に対して安定した成果を上げており、達成率の高い目標に対しては次年度の目標を底上げするなど、意欲的な姿勢が評価できる。状況の変化により未達成となった目標については、目標達成のための解決策の検討を行い、次の中期目標の策定に活かして欲しい。また、環境理念やコンプライアンス遵守の考えが個々の社員に深く浸透することによって、社会貢献を果たす責任ある企業としての基盤が更に整備されるであろう。貴社のますますの発展と環境・社会活動のより一層の充実を期待する。

\*この意見報告書は、環境・社会報告書の記載情報の正確性に関する意見表明ではありません。

一般財団法人 日本建築センター  
理事長

松野 仁



東京大学名誉教授

安岡 正人

